

2020豊岡市  
まちづくりアンケート  
～政策モニタリング調査～

# 結果報告書

～戦略や事務事業を改善するためのヒント～

2020年3月  
豊岡市 政策調整課

# 目 次

1	調査概要 .....	1
2	回答者の属性 .....	2
3	自然と環境について（問 8～問 11） .....	6
4	子育てと教育について（問 12～問 18） .....	11
5	環境と経済について（問 19～問 20） .....	18
6	健康と運動について（問 21～問 25） .....	21
7	公共交通について（問 26～問 29） .....	26
8	食と農業について（問 30～問 31） .....	32
9	地域の歴史、伝統、文化芸術（問 32～問 37） .....	35
10	防災について（問 38～問 44） .....	42
11	まちづくりと観光について（問 45～問 48） .....	50
12	統計基礎用語解説 .....	52
13	調査票 .....	53

## 1 調査概要

### (1) 戦略的政策評価におけるアンケートの役割

戦略的政策評価では、セオリー評価（戦略体系図の改善）やプロセス評価（事務事業の実施方法の変更等）を実施する。その際に参考にする情報の1つがアンケートによって得た情報である。

### (2) アンケートの内容

評価のための情報を得るためには、戦略目的等が示す社会状態（市民の知識や行動など）を把握する必要がある。そこで本アンケート作成にあたって、戦略目的等が示す内容を把握できる質問文を、専門家の協力を得て作成した。

### (3) 調査内容

#### ア 実施概要

本アンケートの実施概要は次表に示すとおりである。

対 象	市内在住の18歳以上4,000人を無作為抽出
方 法	郵送配布及び郵送回収による
調 査 日	2020年1月16日～2月7日（2月14日受付分まで有効票）
回 収 数	1,762票（回収率44.1%）
実施主体	豊岡市（政策調整部政策調整課行財政改革係）

#### イ 集計及び分析

(ア) 集計及び分析は、「無回答」を除いた有効回答を対象に算出している。

(イ) 集計結果は小数点第2位（又は第3位）を四捨五入しており、表示の比率の合計が100%にならない場合などがある。

(ウ) 通年の比較を行うためデータクリーニングを行った結果、過去の集計結果と誤差が生じている。

(エ) 本分析の中では10代と20代を「若年層」、30代～60代を「壮年層」及び70代と80代以上を「老年層」としている。

### (4) 分析

昨年（以下「2019年調査」という。）で、戦略体系図の因果関係を分析したので、今年（以下「2020年調査」という。）では、経年変化を中心に分析した。

## 2 回答者の属性

### (1) 性別（表 1 及び図 1）

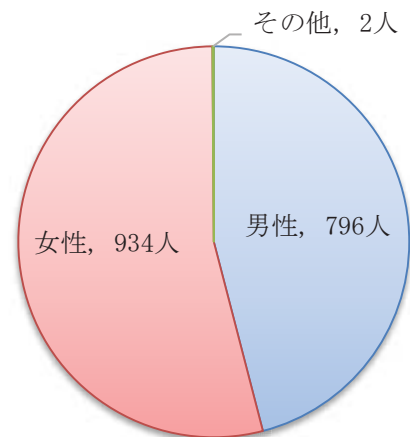
回答者の性別は、男性796人（46.0%）、女性934人（53.9%）、その他2人（0.1%）であった。回答者の男女別の割合は、国勢調査と比べて大きな差はない。本アンケートでは性別の選択肢に「その他」を設けている。これを選択した回答者は2人（0.1%）である。

図 1：回答者の性別

<表 1：国勢調査との比較> 単位：%

性別	本アンケート	2015国勢調査
男	46.0	48.0
女	53.9	52.0
その他	0.1	—

有効回答者数：1,732人



### (2) 年齢（表 2 及び図 2）

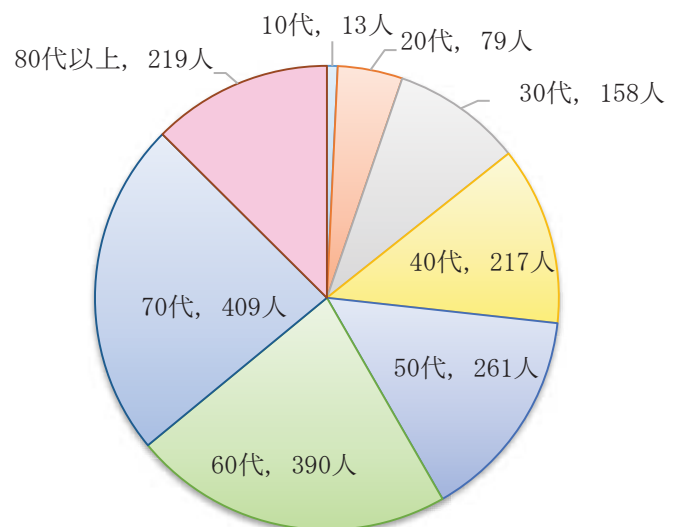
回答者の年齢層は、10代が13人（0.7%）、20代が79人（4.5%）、30代が158人（9.0%）、40代が217人（12.4%）、50代が261人（14.9%）、60代が390人（22.3%）、70代が409人（23.4%）、80代以上が219人（12.5%）である。回答者の年齢層別の割合は、国勢調査と比べて大きな差はない。

<表 2：国勢調査との比較> 単位：%

年齢層	本アンケート	2015国勢調査
10代	0.7	1.6
20代	4.5	8.2
30代	9.0	12.6
40代	12.4	15.4
50代	14.9	15.4
60代	22.3	18.8
70代	23.4	14.4
80代以上	12.5	13.6

有効回答者数：1,746人

図 2：回答者の年齢層別人数



(3) 職業（表 3）

回答者の職業は、「無職（年金暮らし含む）」が最も多く（31.2%）、「会社員、会社役員」（24.7%）、「パート、アルバイト」（13.4%）の順である。

<表 3：回答者の職業>

職業	回答者数（人）	割合（%）
会社員、会社役員	426	24.7
自営業（農業含む）	190	11.0
公務員	109	6.3
パート、アルバイト	231	13.4
専業主婦	159	9.2
学生	25	1.5
NGO、NPO	6	0.3
無職（年金暮らし含む）	538	31.2
その他	40	2.3
合計	1,724	100.0

(4) 居住地域（表 4）

回答者が住んでいる地域は豊岡地域（48.7%）が最も多い。回答者の地域別の割合は、国勢調査と比べて大きな差はない。

<表 4：回答者の居住地域>

居住地域	本アンケート		2015国勢調査（%）
	回答者数（人）	割合（%）	
豊岡	848	48.7	52.7
城崎	131	7.5	4.3
竹野	99	5.7	5.5
日高	362	20.8	20.2
出石	207	11.9	12.1
但東	96	5.5	5.2
合計	1,743	100.0	100.0

(5) 年齢層別の家族構成（表5）

回答者の家族構成を年齢構成別にみると、70代及び80代の回答者の1割以上がひとり暮らし世帯である。また、70代及び80代の回答者の3割以上が夫婦のみの世帯である。

<表5：回答者の年齢層別の家族構成>

年代		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と未成年の子ども	ひとり親と未成年の子ども	二世帯	三世帯	その他	合計
10代	人数(人)	0	0	3	1	3	6	0	13
	割合(%)	0.0	0.0	23.1	7.7	23.1	46.2	0.0	100.0
20代	人数(人)	12	3	13	0	32	18	1	79
	割合(%)	15.2	3.8	16.5	0.0	40.5	22.8	1.3	100.0
30代	人数(人)	11	12	69	2	32	24	8	158
	割合(%)	7.0	7.6	43.7	1.3	20.3	15.2	5.1	100.0
40代	人数(人)	9	13	88	7	53	38	7	215
	割合(%)	4.2	6.0	40.9	3.3	24.7	17.7	3.3	100.0
50代	人数(人)	26	60	19	5	96	39	16	261
	割合(%)	10.0	23.0	7.3	1.9	36.8	14.9	6.1	100.0
60代	人数(人)	28	144	3	2	137	58	17	389
	割合(%)	7.2	37.0	0.8	0.5	35.2	14.9	4.4	100.0
70代	人数(人)	43	165	2	2	122	57	13	404
	割合(%)	10.6	40.8	0.5	0.5	30.2	14.1	3.2	100.0
80代	人数(人)	29	71	0	3	66	29	14	212
	割合(%)	13.7	33.5	0.0	1.4	31.1	13.7	6.6	100.0

(6) 地域別の住居形態（表6）

回答者の多くが持ち家の一戸建てに住んでいる（88.2%）。地域別にみると、豊岡地域及び日高地域で、賃貸の集合住宅に住んでいる回答者の割合が高い（11.1%及び6.4%）。

<表6：回答者の地域別の住居形態>

地域		持ち家		賃貸		社宅・寮・シェアハウス等	その他	合計
		一戸建て	集合住宅	一戸建て	集合住宅			
豊岡	人数（人）	711	5	21	94	6	10	847
	割合（％）	83.9	0.6	2.5	11.1	0.7	1.2	100.0
城崎	人数（人）	123	0	2	1	4	1	131
	割合（％）	93.9	0.0	1.5	0.8	3.1	0.8	100.0
竹野	人数（人）	95	1	2	1	0	0	99
	割合（％）	96.0	1.0	2.0	1.0	0.0	0.0	100.0
日高	人数（人）	327	1	9	23	2	0	362
	割合（％）	90.3	0.3	2.5	6.4	0.6	0.0	100.0
出石	人数（人）	193	0	6	6	0	2	207
	割合（％）	93.2	0.0	2.9	2.9	0.0	1.0	100.0
但東	人数（人）	87	1	4	2	1	1	96
	割合（％）	90.6	1.0	4.2	2.1	1.0	1.0	100.0
合計	人数（人）	1,536	8	44	127	13	14	1,742
	割合（％）	88.2	0.5	2.5	7.3	0.7	0.8	100.0

(7) 地域別の回答者家族の子どもの有無（表7）

同居家族に高校生以下の子どもがいる回答者は、地域別にみると豊岡地域が最も多く（234人）、子どもがいる回答者の中で、同居家族の中に小学生以下の子どもがいる回答者が最も多い（316人）。

<表7：地域別の回答者家族の子どもの有無>

単位：人

地域	子ども有	小学生以下の子ども有り	中学生の子ども有り	高校生の子ども有り
豊岡	234	163	60	80
城崎	45	29	14	16
竹野	25	18	6	7
日高	100	67	28	27
出石	45	28	14	16
但東	13	11	0	2
計	462	316	122	148

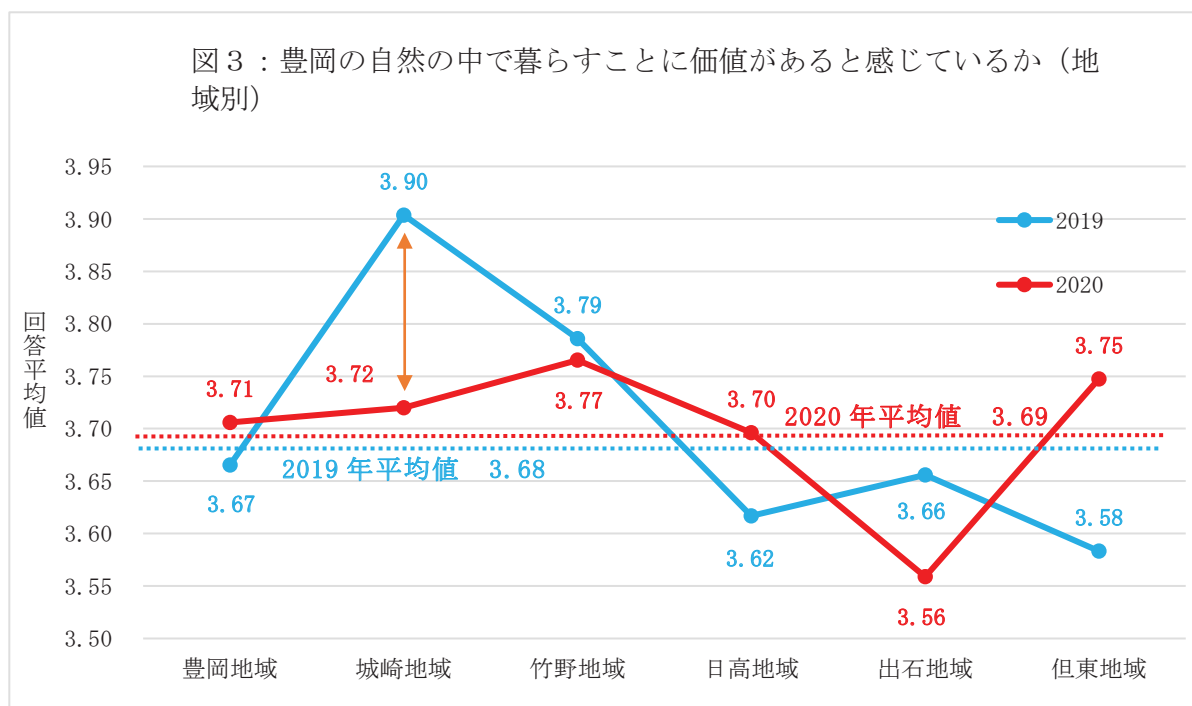
### 3 自然と環境について（問 8～問 11）

問 8 から問 11 までは、上位目的「自然と折り合う暮らしがまちに根付いている」に関する設問である。

- (1) 問 8 『あなたは、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか』は、戦略目的「豊岡の自然を楽しみ、自然の中で暮らす価値を知っている市民が増えている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）の回答平均値について、地域別の結果は図 3 のとおりである（注1）。2019年調査においては、城崎地域の回答は豊岡地域（ $t=2.60$   $p<0.05$ ）（注2）、日高地域（ $t=2.85$   $p<0.01$ ）、出石地域（ $t=2.24$   $p<0.05$ ）及び但東地域（ $t=2.36$   $p<0.05$ ）に比べ統計的に有意な差があり、城崎地域の回答が高かったが、2020年調査では各地域の間に有意な差はない。

両調査の結果から考えると、現時点において、はっきりとした地域差があるとは言えない。なお、市全体の回答も調査年の間で統計的に有意な差はない。



(注1) 本調査の多くの設問で、設問に対する最も否定的な回答選択肢から順に、1 から 5 までの整数値とした上で、平均値等の計算を行っています。なお、具体的な回答選択肢については、13 調査票を参照して下さい。

(注2) 注 1 のような質問に対する回答値について、2つの集団に差があるかどうかを調べています。詳しくは、12 統計基礎用語解説で説明していますので、参照して下さい。



両調査年における男女別の回答平均値は、表8のとおりである。

両調査年とも、男性と女性との間で統計的に有意な差があり、女性は男性より高い。女性は男性より、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていると言える。

<表8：男女別の回答平均値>

調査年 \ 性別	女性	男性	t値	p値（両側）
2019	3.73	3.62	2.37	<0.05
2020	3.75	3.62	2.06	<0.05

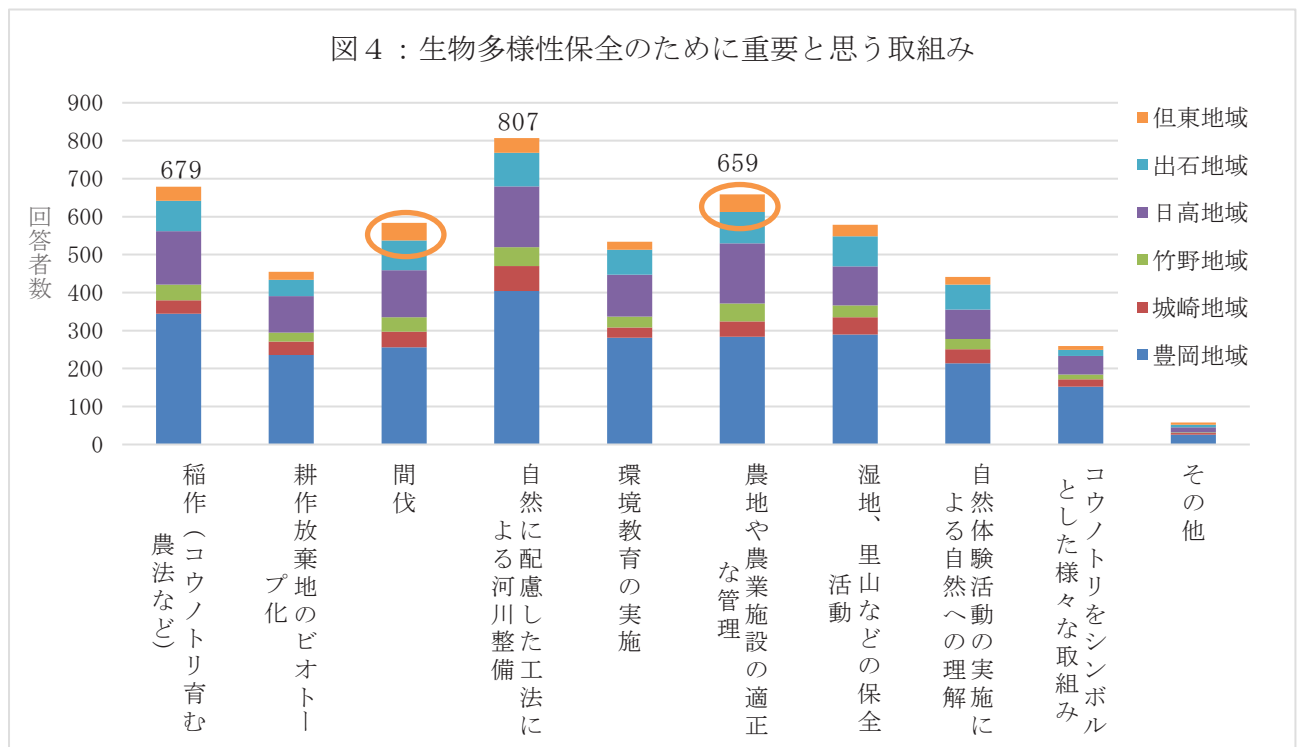
(2) 問9及び問10は、手段01「市民が、豊岡のコウノトリをシンボルとした生物多様性の保全や地球温暖化対策の必要性を理解し、実践している」状態を測定する設問である。

問9『あなたは、生物多様性保全のためにどのような取組みが重要だと思いますか』の結果は図4のとおりである。回答者数が多い取組みは、「自然に配慮した工法による河川整備」（807人）、「稲作（コウノトリ育む農法など）」（679人）、「農地や農業施設の適正な管理」（659人）などである。

地域別の回答者に占める割合をみると、豊岡地域、城崎地域、竹野地域、日高地域及び出石地域では「自然に配慮した工法による河川整備」の割合が最も高い。

但東地域では「間伐」及び「農地や農業施設の適正な管理」の回答割合が高く、但東地域の生物多様性保全における山林と農地の重要性が示唆されていると思われる。

なお、これらの特徴は2019年調査とほぼ同様である。

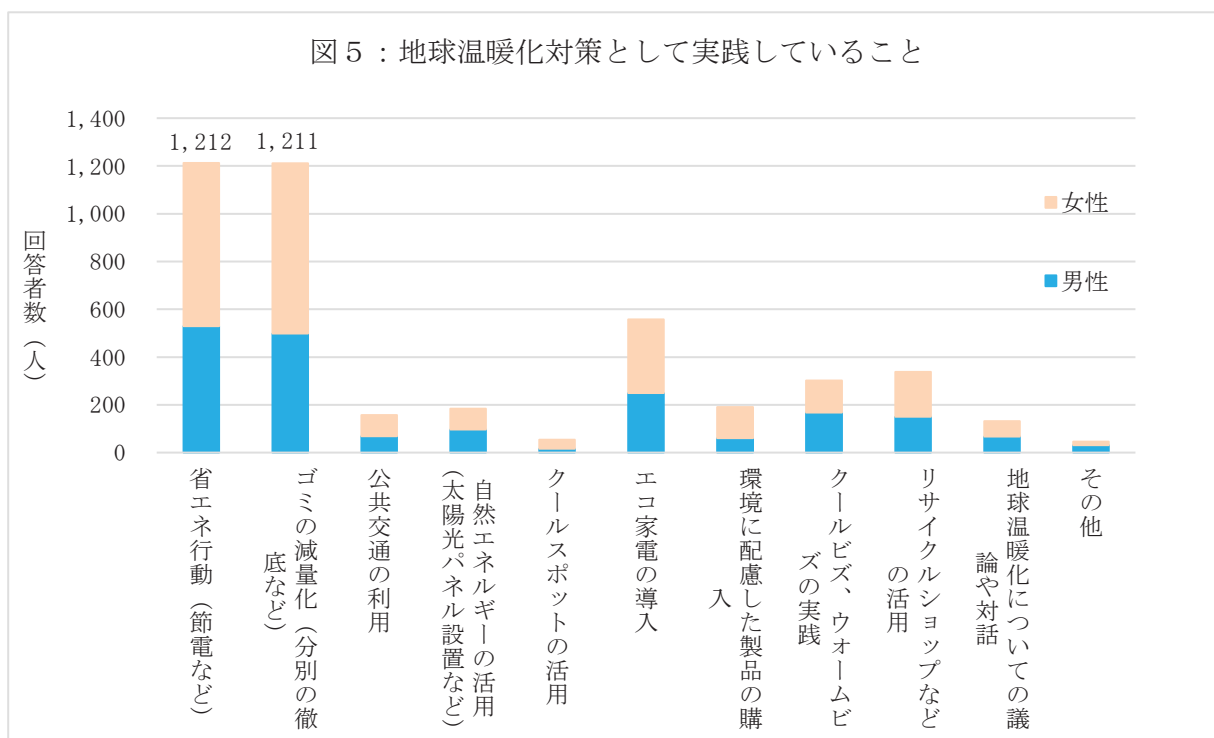


問10『あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか』の結果は図5のとおりである。

回答の多い取組みは「省エネ行動（節電など）」（1,212人）及び「ゴミの減量化（分別の徹底など）」（1,211人）である。

男女別でみた場合、男性は「自然エネルギーの活用（太陽光パネル設置など）」（カイ2乗値=6.45(df=1, p<0.05)）<sup>(注3)</sup>及び「クールビズ、ウォームビズの実践」（カイ2乗値=15.24(df=1, p<0.01)）の回答者数が多く、女性と比べて統計的に有意な差がある。これらの取組みは、男性の方が女性よりも多く実践していると言える。

女性は「省エネ行動（節電など）」（カイ2乗値=9.10(df=1, p<0.05)）、「ゴミの減量化（分別の徹底など）」（カイ2乗値=38.05(df=1, p<0.01)）及び「環境に配慮した製品の購入」（カイ2乗値=20.38(df=1, p<0.01)）において回答者数が多く、男性と比べて統計的に有意な差がある。これらの取組みは、女性の方が男性よりも多く実践していると言える。



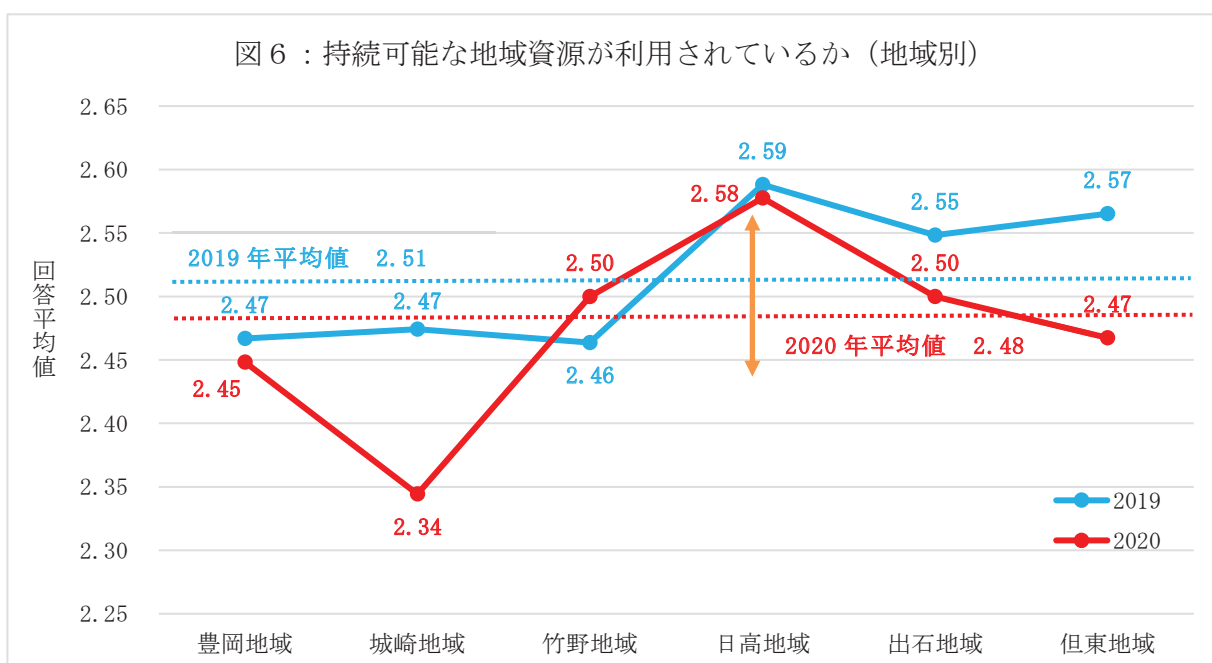
なお、「その他」で複数挙げられたものは、「マイバック持参」、「水筒活用」、「自転車や徒歩での移動」などがある。

(注3) 「はい」と「いいえ」や「有り」「無し」のような質問について、2つの集団の回答に差があるかどうかを調べています。詳しくは、12 統計基礎用語解説で説明していますので、参照して下さい。

(3) 問11『あなたは、森林資源（木質バイオマス）や自然エネルギー（太陽光、風力、水力）などの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか』は、手段03「持続可能な地域資源の利用が促進されている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）の回答平均値について、地域別の結果は図6のとおりである。

日高地域と豊岡地域（ $t=2.23$   $p<0.05$ ）及び城崎地域（ $t=2.35$   $p<0.05$ ）には統計的に有意な差があり、これは昨年と同様の傾向である。日高地域は豊岡地域及び城崎地域に比べ、「持続可能な地域資源」が有効に利用されている可能性がある。



なお、全体の回答には、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。また、城崎地域における回答について、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。

- (4) 2019年調査と同様に、問8と問11の回答との間に相関がある ( $r=0.14$ ,  $p<0.01$ ) (注4)。相関関係は因果関係ではないが、問11への肯定的な回答者を増やすことで、問8にも肯定的に回答する人が増える可能性はある。

問11について、男女別の回答者数及び回答者に占める割合は表9のとおりである。

<表9：問11に対する男女別の回答内訳>

		まったくそ う思わない	あまりそ う思わない	どちらとも 言えない	ある程度そ う思う	とてもそ う思う	合計
男性	人数 (人)	95	394	156	120	15	780
	割合 (%)	12.2	50.5	20.0	15.4	1.9	100.0
女性	人数 (人)	91	395	297	112	5	900
	割合 (%)	10.1	43.9	33.0	12.4	0.6	100.0

問11について、年代別の回答者数及び回答者に占める割合は表9のとおりである。

<表10：問11に対する年代別の回答>

		まったくそ う思わない	あまりそ う思わない	どちらとも 言えない	ある程度そ う思う	とてもそ う思う	合計
10代	人数 (人)	1	6	3	3	0	13
	割合 (%)	7.7	46.2	23.1	23.1	0.0	100.0
20代	人数 (人)	7	30	26	13	0	76
	割合 (%)	9.2	39.5	34.2	17.1	0.0	100.0
30代	人数 (人)	12	62	62	19	1	156
	割合 (%)	7.7	39.7	39.7	12.2	0.6	100.0
40代	人数 (人)	20	85	83	26	0	214
	割合 (%)	9.3	39.7	38.8	12.1	0.0	100.0
50代	人数 (人)	25	116	76	34	4	255
	割合 (%)	9.8	45.5	29.8	13.3	1.6	100.0
60代	人数 (人)	37	214	82	46	5	384
	割合 (%)	9.6	55.7	21.4	12.0	1.3	100.0
70代	人数 (人)	61	194	84	55	6	400
	割合 (%)	15.3	48.5	21.0	13.8	1.5	100.0
80代以 上	人数 (人)	26	87	39	41	4	197
	割合 (%)	13.2	44.2	19.8	20.8	2.0	100.0

「あまりそう思わない」と回答している男性や、60代や70代をターゲットとした事務事業を行うことが、全体の回答平均値を引き上げる可能性があると思われる。

(注4) 相関とは、一方が増えると他方も増える（又は減る）関係のことで、その度合いを調べています。詳しくは、12 統計基礎用語解説で説明していますので、参照して下さい。

#### 4 子育てと教育について（問 12～問 18）

問12から問15までは、上位目的「豊岡で子どもを産み育てたい、豊岡で子育てをして良かったと思う人が増えている」に関する設問である。

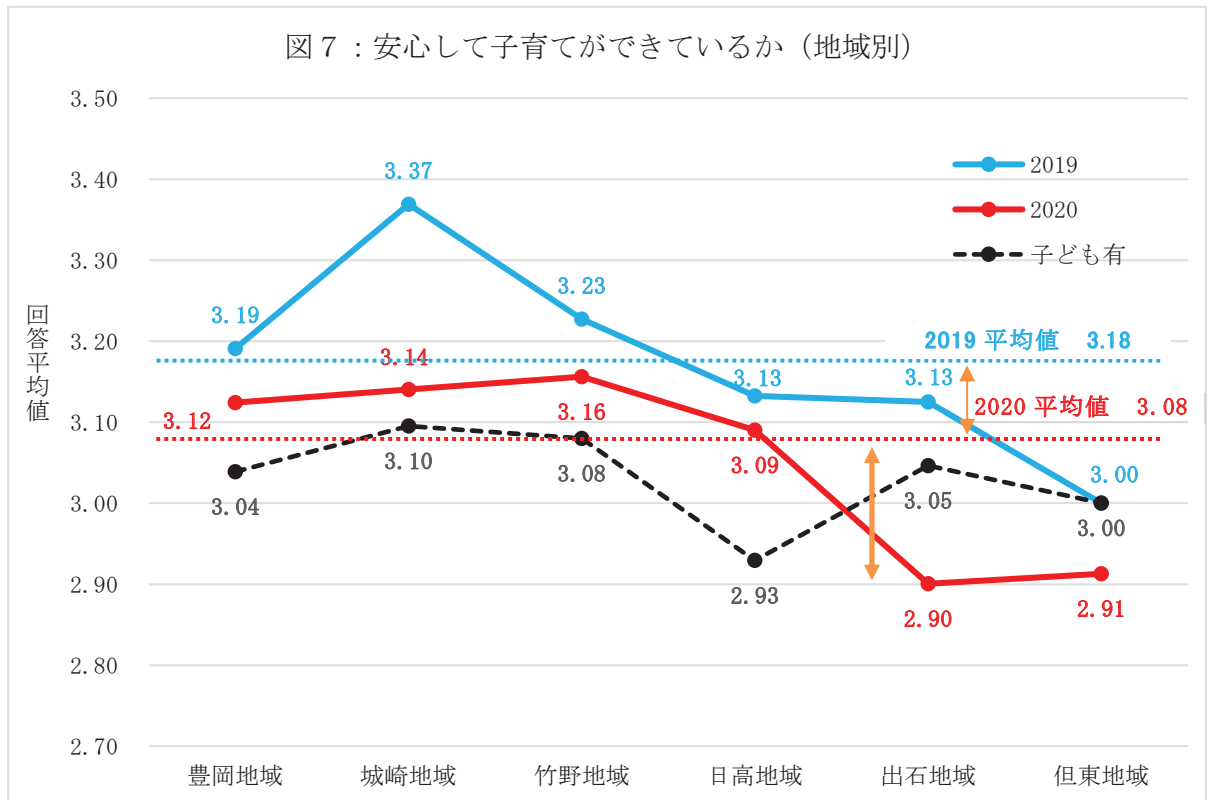
(1) 問12『あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていると思いますか』は、戦略目的「まちに子育てへの気遣いがあふれ、子育ての不安が軽減されている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）、2020年調査（赤色折れ線）及び2020年調査の子どもがいる世帯（黒色折れ点線）における回答平均値について、地域別の結果は図7のとおりである。

2019年調査と2020年調査との間には統計的に有意な差があり（ $t=2.91$   $p<0.01$ ）、2020年調査における回答は2019年調査に比べて否定的であると言える。

2020年調査の地域別では、出石地域と豊岡地域、城崎地域、竹野地域及び日高地域との間に統計的に有意な差がある（ $t=2.03\sim 2.88$   $p<0.05$ ）。また豊岡地域と但東地域との間にも統計的に有意な差がある（ $t=1.98$   $p<0.05$ ）。出石地域や但東地域は他の地域に比べ、安心して子育てができていると感じられていないと言える。

2020年調査の回答について、子ども有の世帯と子ども無の世帯との間では統計的に有意な差はない。



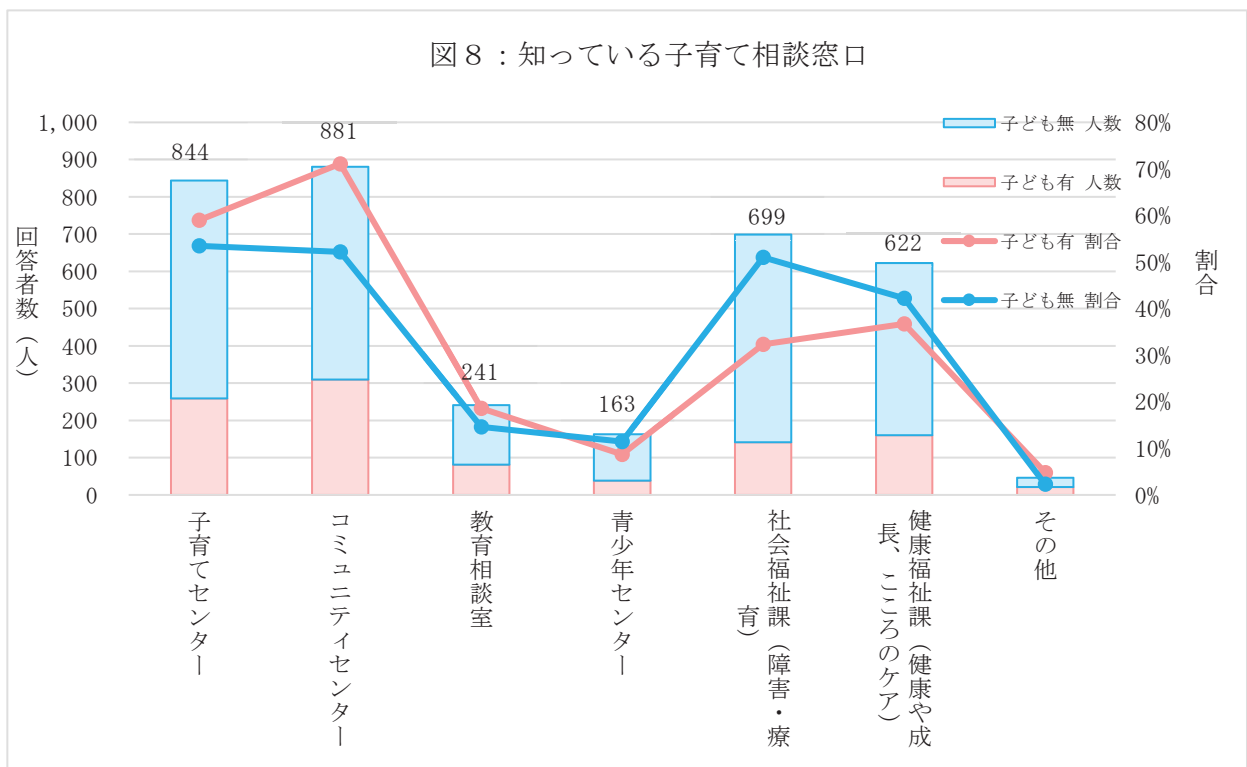
なお2019年調査と同様に、全回答者について男女との間で統計的に有意な差があり（ $t=4.06$   $p<0.01$ ）、女性は男性よりも安心して子育てができていると感じていると言える。

(2) 問13『子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか』は、手段06「子育てに不安や困難を抱えている家庭が支援を受けられる」状態を測定する設問である。

回答人数（子ども無の世帯：青色棒グラフ 子ども有の世帯：桃色棒グラフ）と回答人数に占める割合（子ども無の世帯：青色折れ線 子ども有の世帯：桃色折れ線）を図8に示した。

「教育相談室」（241人）及び「青少年センター」（163人）を知っている回答者は他に比べて少ない。

子ども有の世帯と子ども無の世帯との間で、「社会福祉課（障害・療育）」（カイ2乗値=43.77(df=1、 $p<0.01$ )）及び「健康福祉課（健康や成長、こころのケア）」（カイ2乗値=3.96(df=1、 $p<0.05$ )）を知っている回答者数に統計的に有意な差がある。子ども有の世帯の方が子ども無しの世帯よりも「社会福祉課（障害・療育）」及び「健康増進課（健康や成長、こころのケア）」を知っていないと言える。



(3) 問14『豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか』は、手段03「子育てと仕事を両立することができている」状態を測定する設問である。

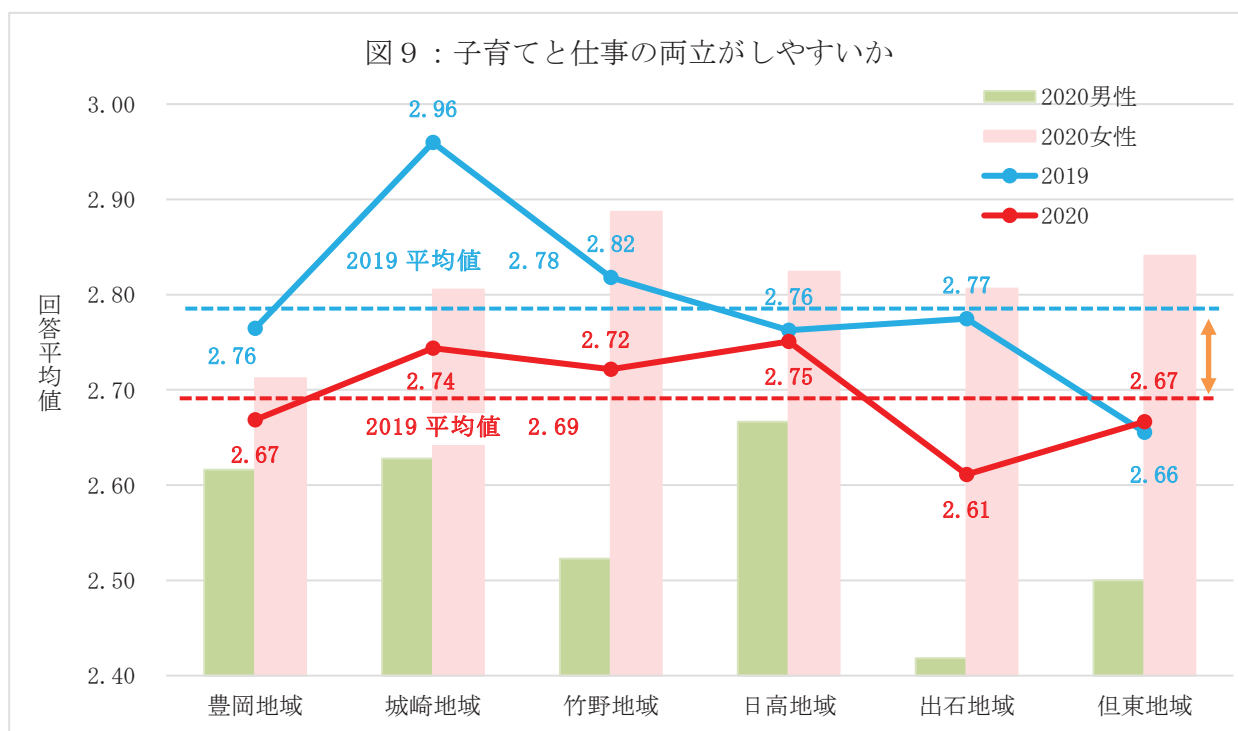
2019年調査（青色折れ線）、2020年調査（赤色折れ線）、2020年調査男性（鶯色棒グラフ）及び2020年調査女性（桃色棒グラフ）における回答平均値について、地域別の結果は図9のとおりである。

2020年調査においては、地域の間で統計的に有意な差はない。

市全体の回答について、2019年調査と2020年調査との間に統計的に有意な差があり（ $t=2.69$   $p<0.01$ ）、2020年調査は2019年調査よりも、子育てと仕事の両立がしやすいと感じられていないと言える。

一方、男女別にみると、2019年調査と同様に統計的に有意な差がある（ $t=3.85$   $p<0.01$ ）。

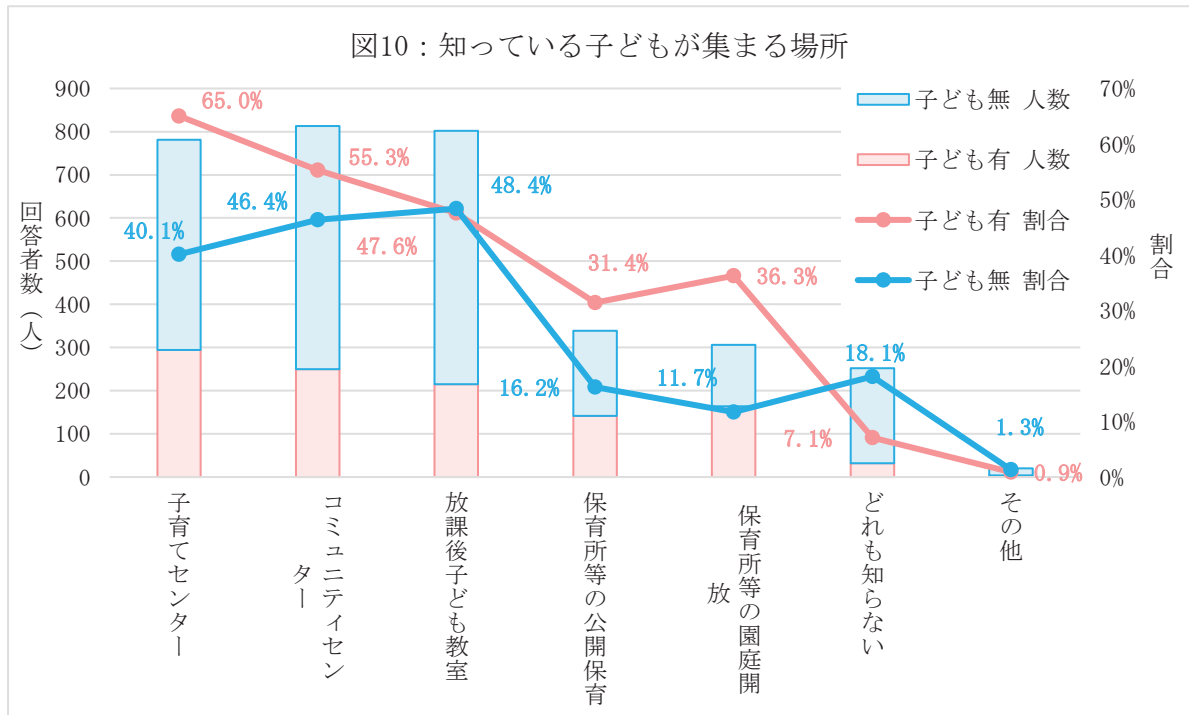
近年の働き方改革やワーク・ライフ・バランス改善に向けての動きが、市民の一般的な期待値を押し上げた結果、回答が否定的なものになった可能性がある。しかしながら、男女別の回答傾向をみると、女性は男性に比べ肯定的に回答していることが分かる。一般的に『ワーク』と『ライフ』の負担は女性に偏る傾向があるが、本市では、男性に比して女性の期待が満たされていることが分かる。



(4) 問15『子ども達が集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか』は、手段02「子どもたちの居場所がある」状態を測定する設問である。

回答人数（子ども無の世帯：青色棒グラフ 子ども有の世帯：桃色棒グラフ）と回答人数に占める割合（子ども無の世帯：青色折れ線 子ども有の世帯：桃色棒グラフ）を図10に示した。

子ども有の世帯は、「放課後子ども教室」以外の項目において、子ども無の世帯よりも子どもが集まる場所を知っている割合が高い。





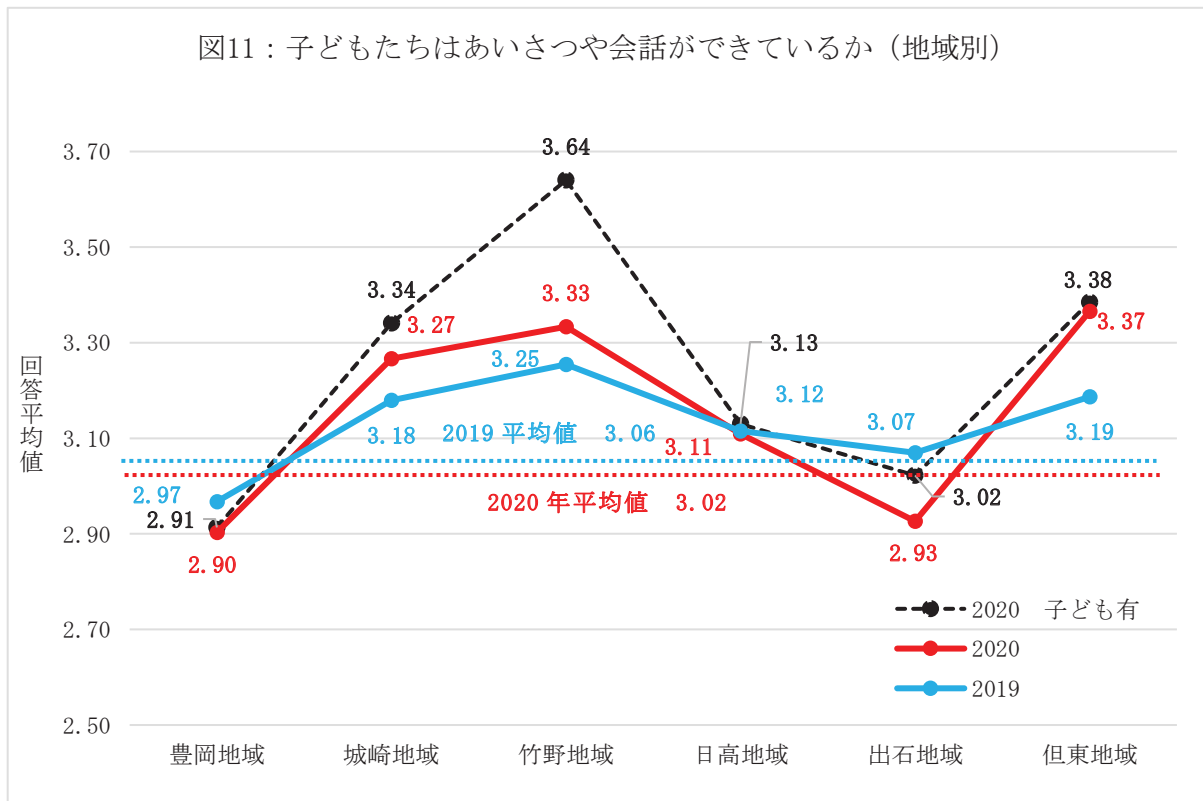
問16から問18までは、上位目的「子どもたちが地域での愛着を育み、豊岡で世界と出会っている」に関する設問である。

(5) 問16『あなたのまわりの子どもたち（小学生・中学生）は、まわりの大人たちとのあいさつや会話ができますか』は、手段04「子どもたちが多様な人々とコミュニケーションできる力を育てている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）、2020年調査（赤色折れ線）及び2020年調査における子ども有の世帯（黒色折れ点線）における回答平均値について、地域別の結果は図11のとおりである。2020年調査においては、地域別に統計的に有意な差はない。

2019年調査と2020年調査の間にも統計的に有意な差はない。

2020年調査においては、子ども有の世帯と子ども無の世帯によって統計的に有意な差があり地域があり、これは2019年調査も同様である。

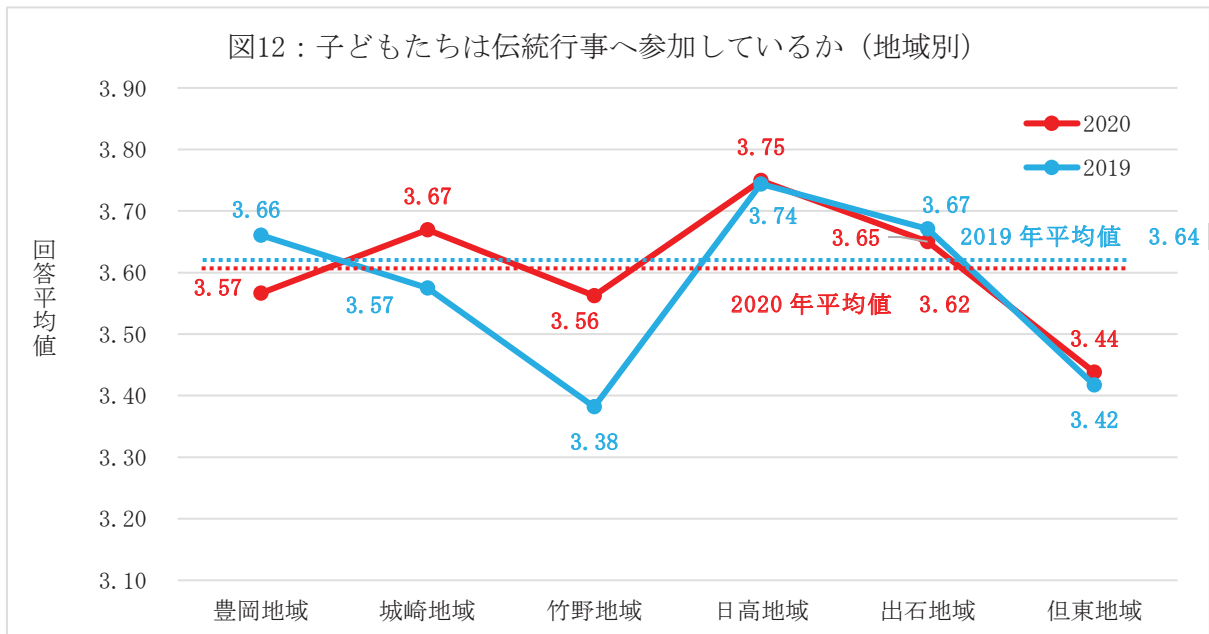


(7) 問17『あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち（小学生・中学生）はどのくらい参加していますか』は、手段0102「地域でふるさとについて知る機会が増えている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図12のとおりである。

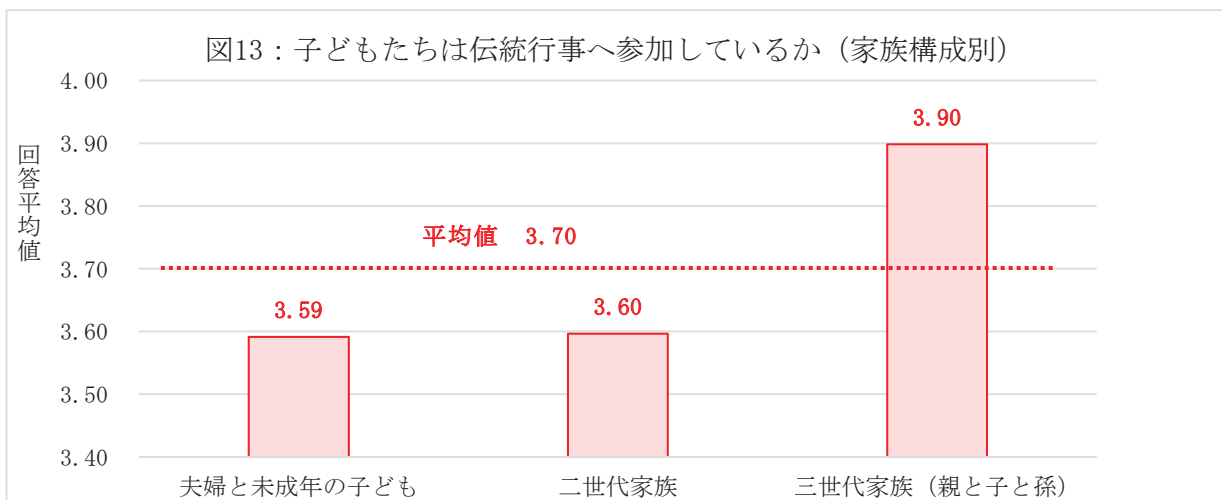
2020年調査においては、地域別に統計的に有意な差はない。

2019年調査と2020年調査との間にも統計的に有意な差はない。



(8) 子どもが世帯内にいる回答者について、2020年調査の問17に対する家族構成別を図13に示した。

「三世代家族」と「夫婦と未成年の子ども」又は「二世世代家族」との間には統計的に有意な差がある（ $t=2.94$   $p<0.01$ 、 $t=2.06$   $p<0.05$ ）。子どもが世帯内にいる「三世代家族」は他の家族構成の世帯よりも、子どもたちが伝統行事に参加していると考えていると言える。

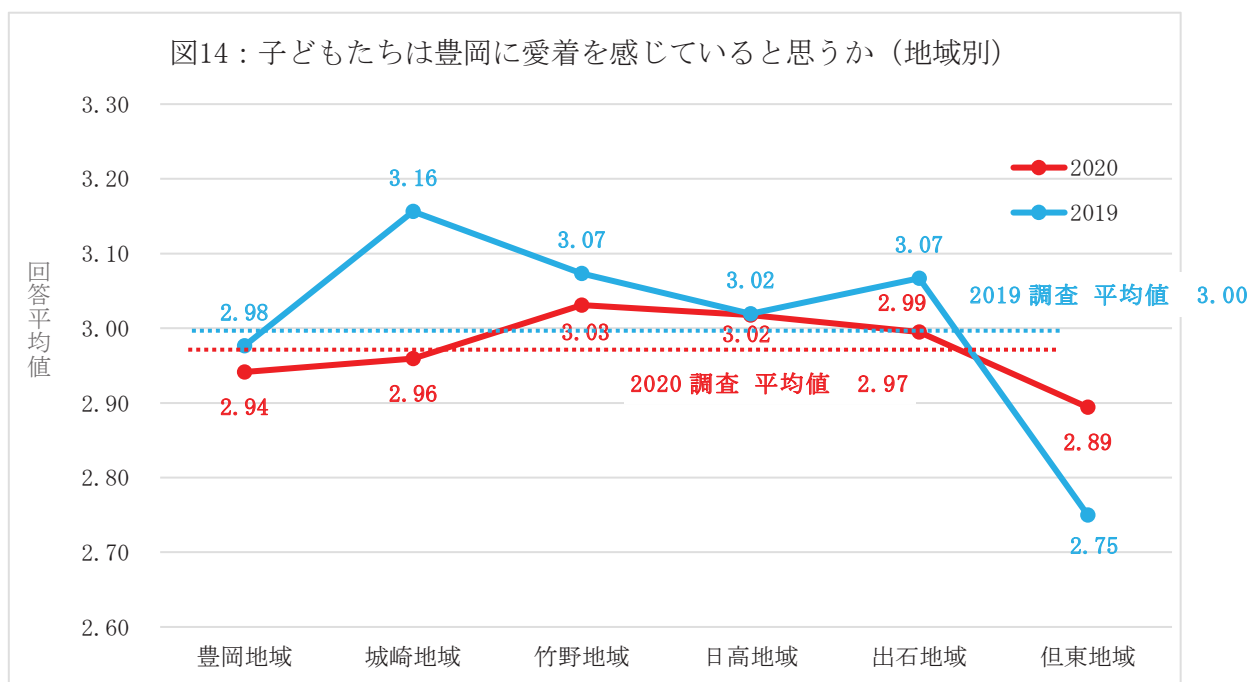


(9) 問18『あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか』は、戦略目的「豊岡に住んでいることを誇りに思う子どもが増えている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図14のとおりである。

2020年調査においては、地域別に統計的に有意な差はない。

2019年調査と2020年調査との間にも統計的に有意な差はない。

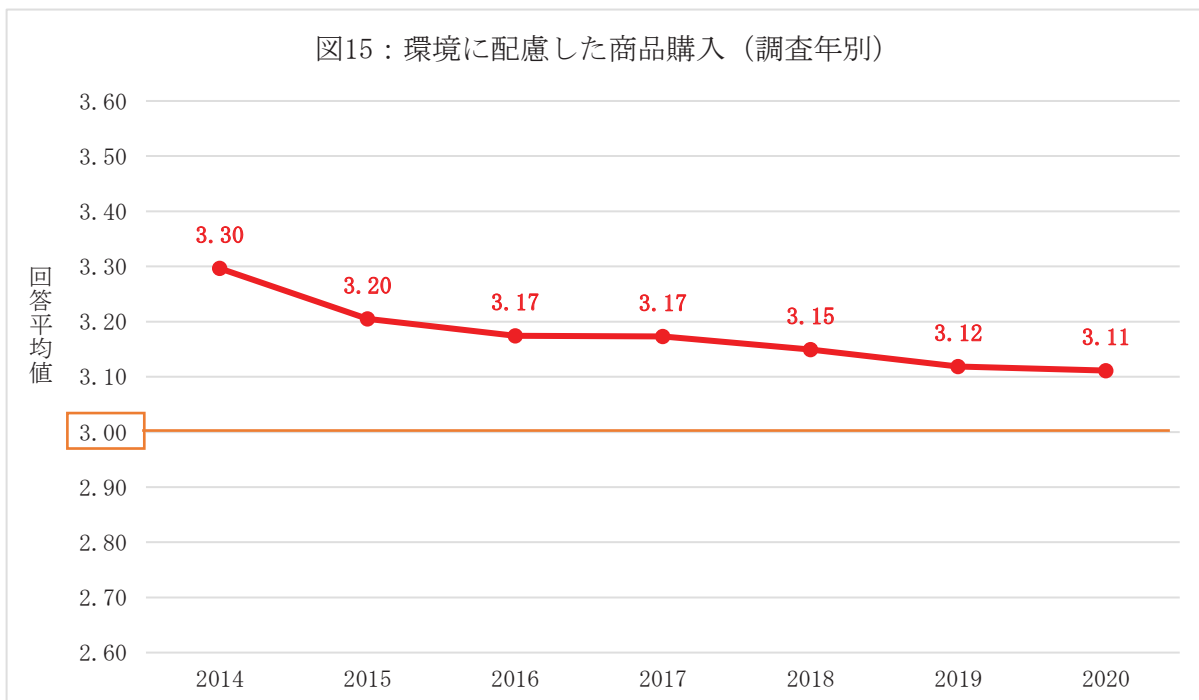


## 5 環境と経済について（問 19～問 20）

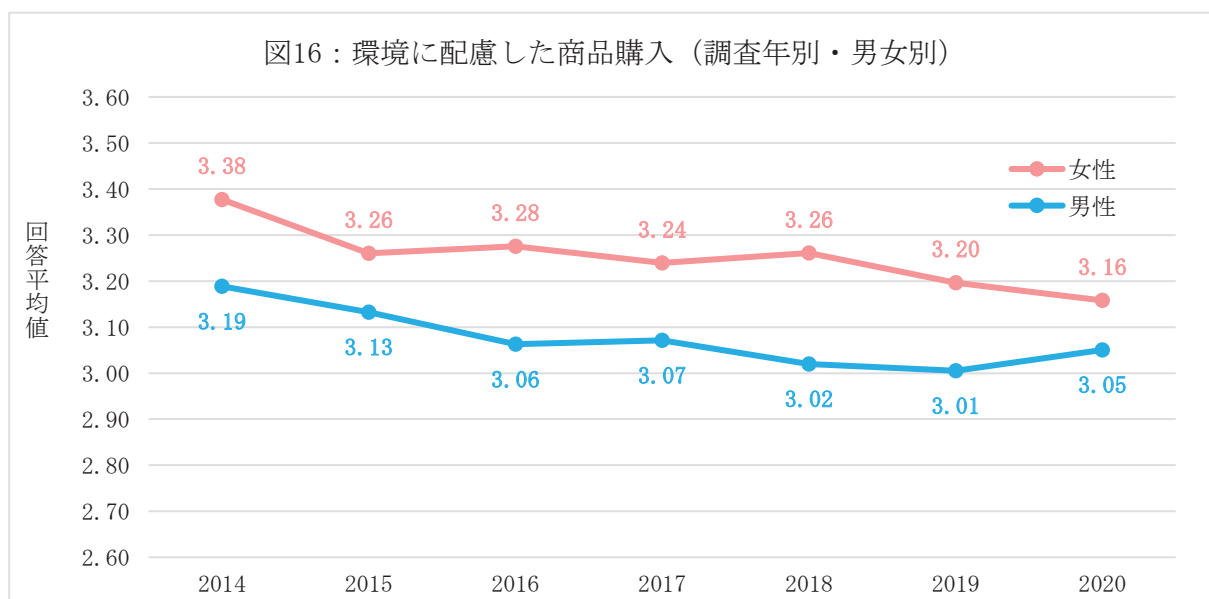
問19及び問20は、上位目的「環境と経済の共鳴が広がっている」に関する設問である。なお、この設問は2014年から実施しているアンケートと同様であるため、過去に実施した分との比較が可能である。ただし、他の質問内容の変更及び全体の質問数の増加があり、全く同じ調査ではないため、完全な比較ができるとまでは言えない。

(1) 問19『日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していますか』は、戦略目的「環境経済への理解が深まっている」状態を測定する設問である。

経年変化は図15のとおりである。調査年と回答値には負の相関があり（ $r=-0.15$   $p<0.01$ ）、回答の中央値（3.00）を越えているが、回答平均値は経年で低下している。

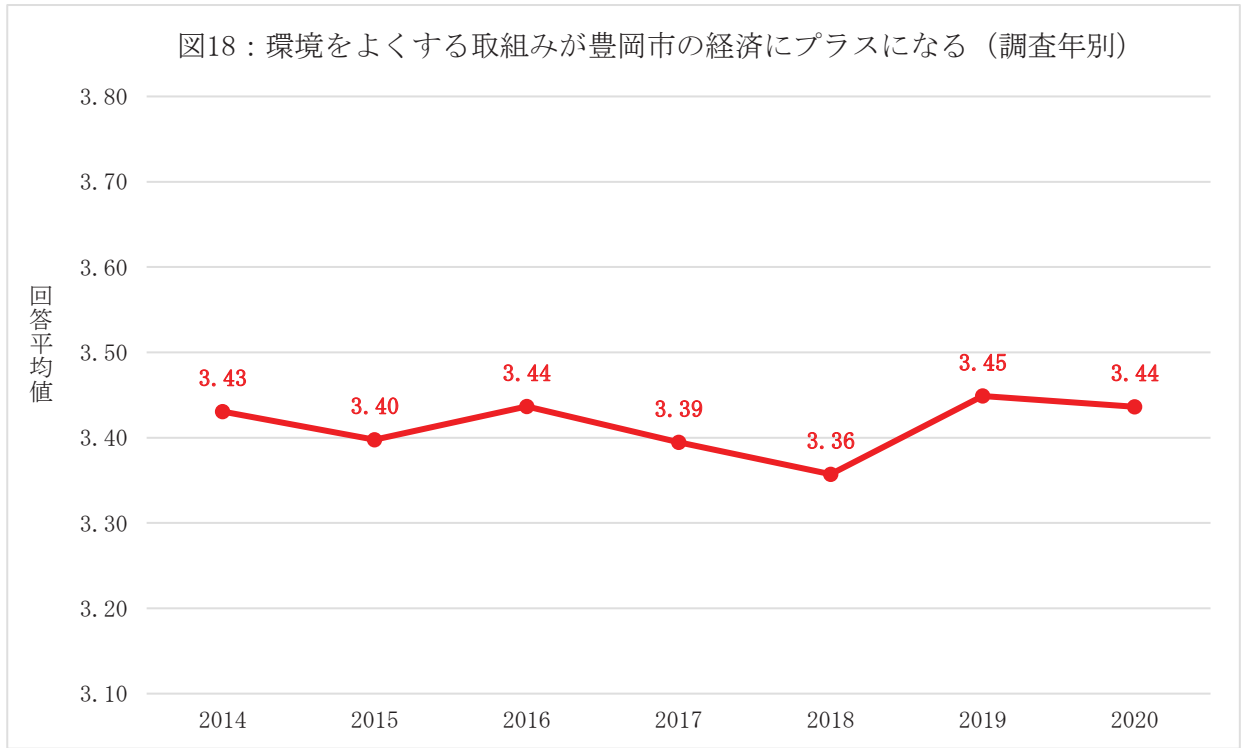


男女別の経年変化を図16に示した。男女との間で統計的に有意な差があり、女性は男性より日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していると言える。

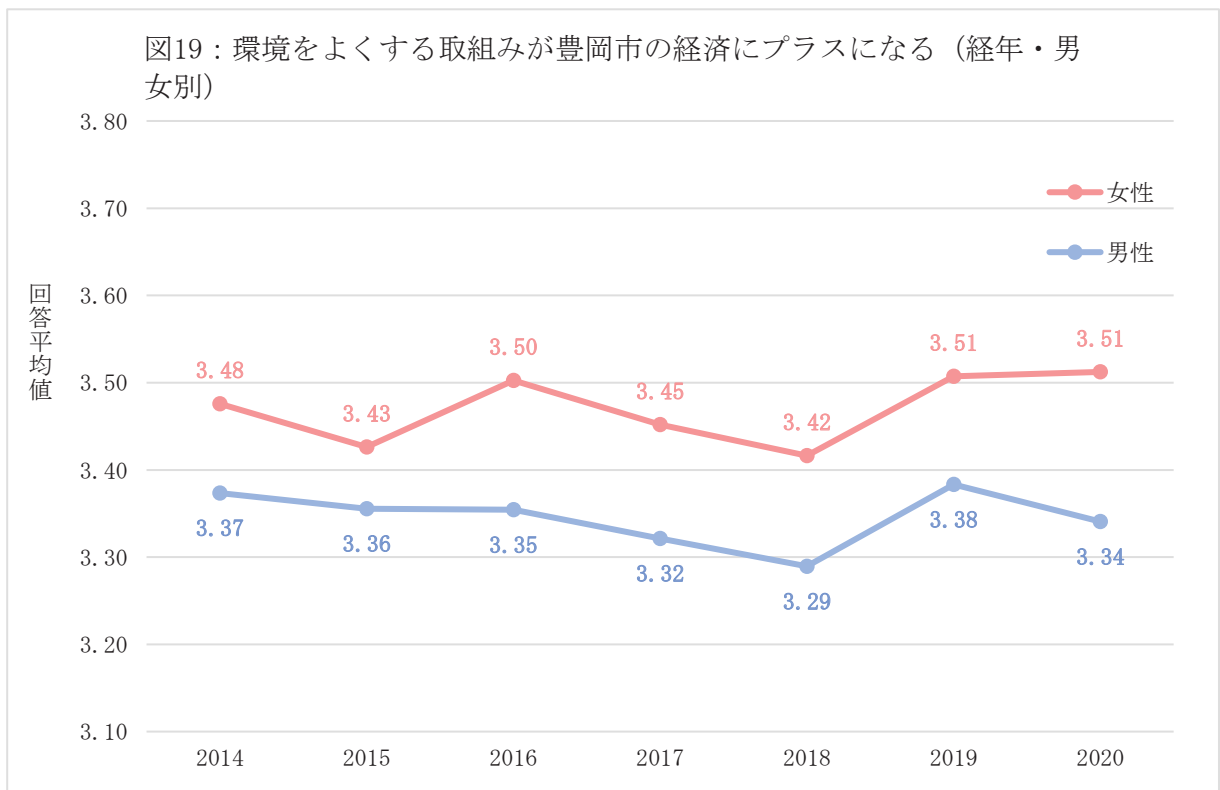


(2) 問20『豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると感じますか』は、手段01「環境経済の考え方に共感する市民が増えている」状態を測定する設問である。

経年の変化は図18のとおりである。ここ7年で大きな傾向は見られない。

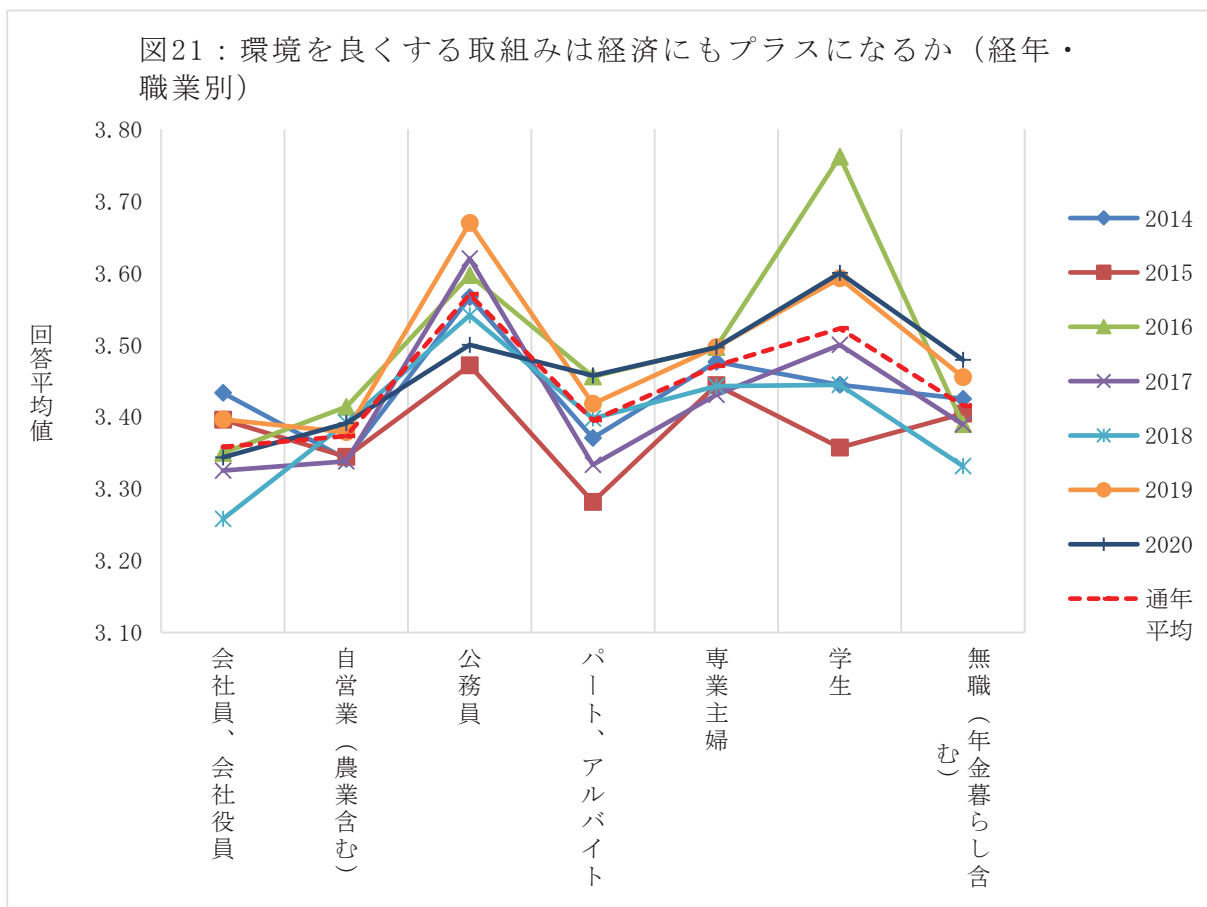


男女別の経年変化は図19のとおりである。男女との間で統計的に有意な差があり、この傾向は2014年調査以降継続している。



職業別の経年変化を図21に示した。ただし、回答者数の少ない「NPO・NGO」及び「その他」を除外している。

調査年を通じて「公務員」の回答平均値が高い傾向がみられる。



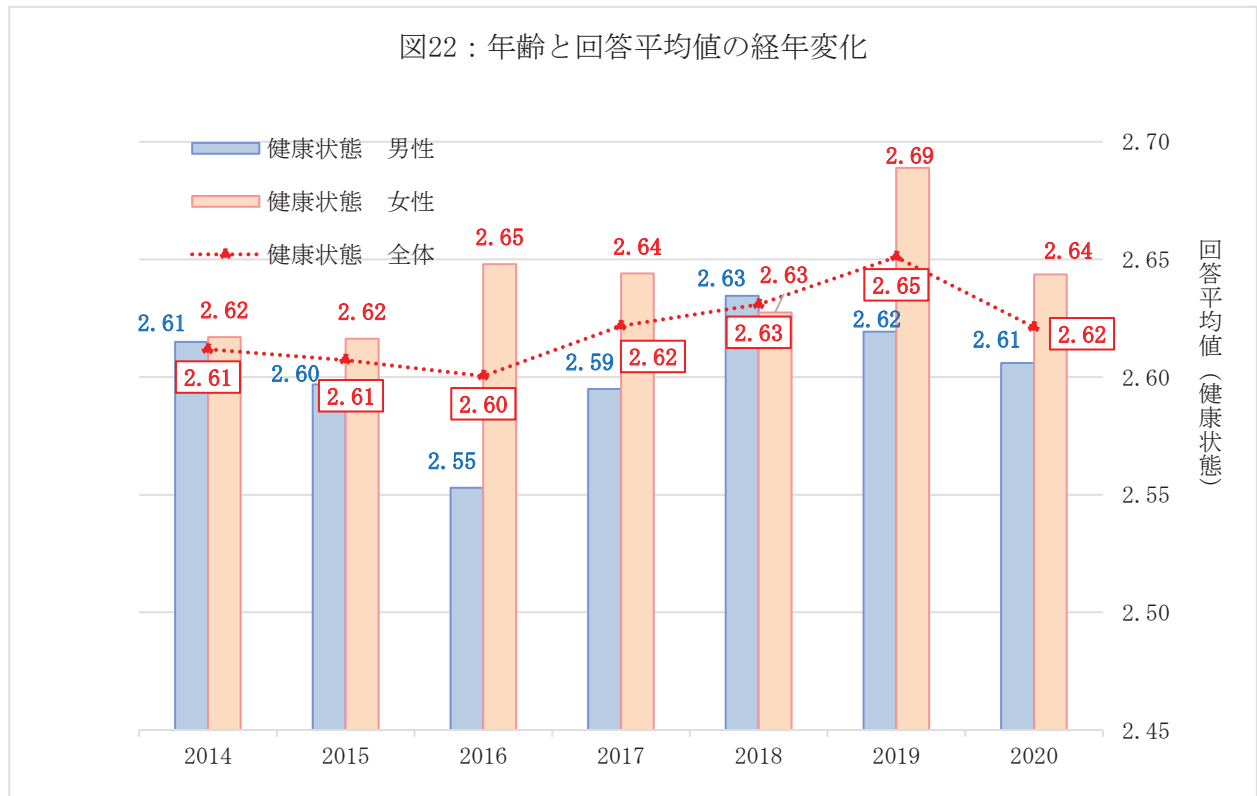
## 6 健康と運動について（問 21～問 25）

問21から問25は、上位目的「市民の健康寿命が延びている」に関する設問である。問21及び問22の設問は、2014年から実施しているアンケートと同様であるため、過去に実施した分との比較が可能である。ただし、他の質問内容の変更及び全体の質問数の増加があり、全く同じ調査ではないため、完全な比較ができるとまでは言えない。

(1) 問21『あなたは現在、自分が健康だと思いますか』は、上位目的の状態を測定する設問である。

全体の健康状態（赤点線）と男女別の健康状態（男性：水色 女性：桃色）の回答平均値について、経年の変化は図22のとおりである。

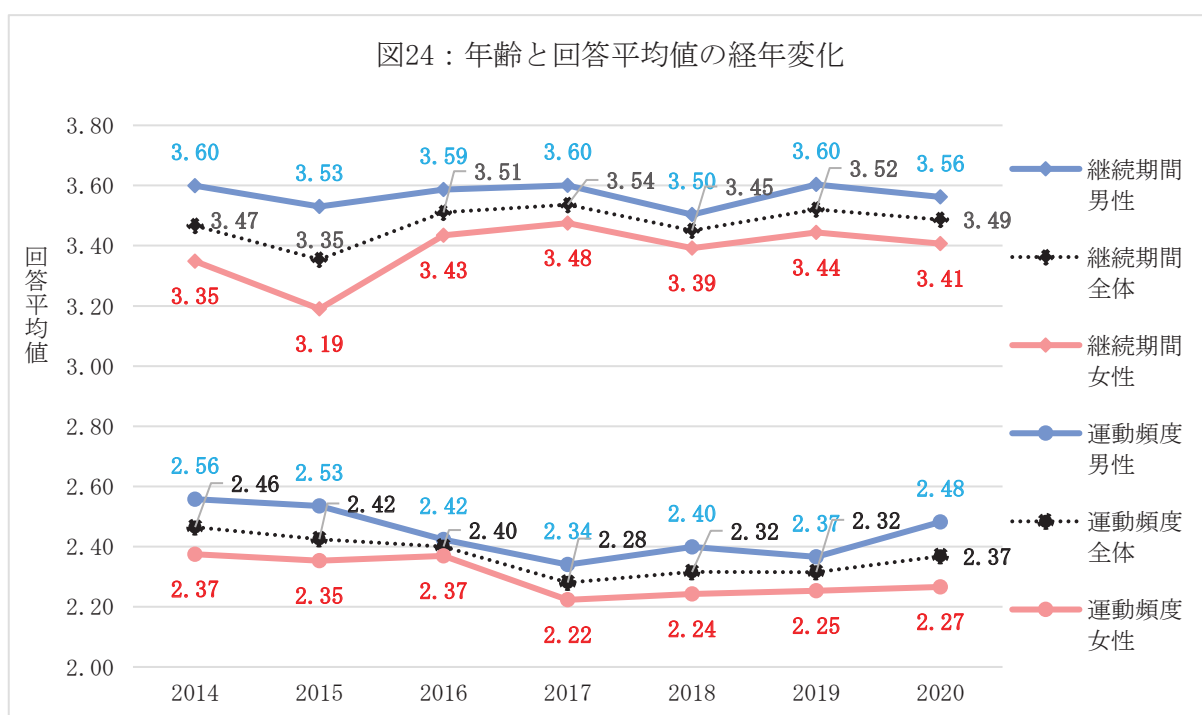
回答者の年齢は、調査年と相関関係があり（ $r=0.04$   $p<0.01$ ）、回答者の年齢は年々上昇している。回答者の年齢は年々上昇しているので、調査年と健康状態の関係を調べてみたが、有意な相関は見られなかった。なお、健康状態について、2020年と2019年との間で統計的に有意な差はない。



(2) 問22『あなたは健康維持・増進のために運動（1日30分以上）をしていますか』は、戦略目的「「歩くこと」など体を動かす健康づくりに取り組む人が増加している」状態を測定する設問である。問22に肯定の回答をした回答者に対する設問である問23『その運動はどのくらい継続されていますか』は、手段03「体を動かす健康づくりを、楽しみながら習慣化できている」状態を測定する設問である。

問22（運動頻度：青色折れ線）と問23（継続期間：赤色折れ線）の経年変化を図24に示した。

昨年報告したとおり、調査期間を通じて問22と問23に相関関係があり、運動頻度が高い人ほど運動を継続している期間は長い。同様に、問22及び問23において、男性と女性の間で統計的に有意な差があり、男性は女性より頻度が多く継続期間も長い。





問22に対する調査年毎の男女別の回答を表11に示し、回答者に占める割合が15%を超える選択肢を橙色に着色した。2016年までは「ほぼ毎日」の選択肢の多くが15%を超えているが、2017年以降は「週に1日以下」の選択肢の多くが15%を超えている。また、男性については、2018年以降「週に1日以下」と「ほぼ毎日」の回答者が多い傾向がみられる。

<表11：問22に対する調査年の毎回答者に占める割合（男女別）>

		していない	週に 1日以下	週に 2日	週に 3日以上	ほぼ毎日
2014	男性	42.4%	12.1%	11.9%	14.6%	19.0%
	女性	47.5%	11.7%	12.0%	13.5%	15.3%
2015	男性	42.9%	12.3%	12.3%	13.4%	19.1%
	女性	46.2%	14.2%	12.1%	13.0%	14.5%
2016	男性	45.4%	13.7%	11.4%	12.2%	17.3%
	女性	46.3%	13.9%	11.8%	12.4%	15.6%
2017	男性	44.9%	15.4%	13.6%	13.1%	13.1%
	女性	48.9%	14.9%	12.3%	12.9%	11.0%
2018	男性	43.3%	16.1%	12.8%	12.8%	14.9%
	女性	48.2%	15.6%	11.2%	13.6%	11.3%
2019	男性	45.0%	15.5%	11.5%	14.1%	14.0%
	女性	47.2%	15.8%	12.8%	12.5%	11.6%
2020	男性	41.4%	16.8%	11.1%	13.6%	17.1%
	女性	47.6%	14.2%	14.1%	11.8%	12.2%

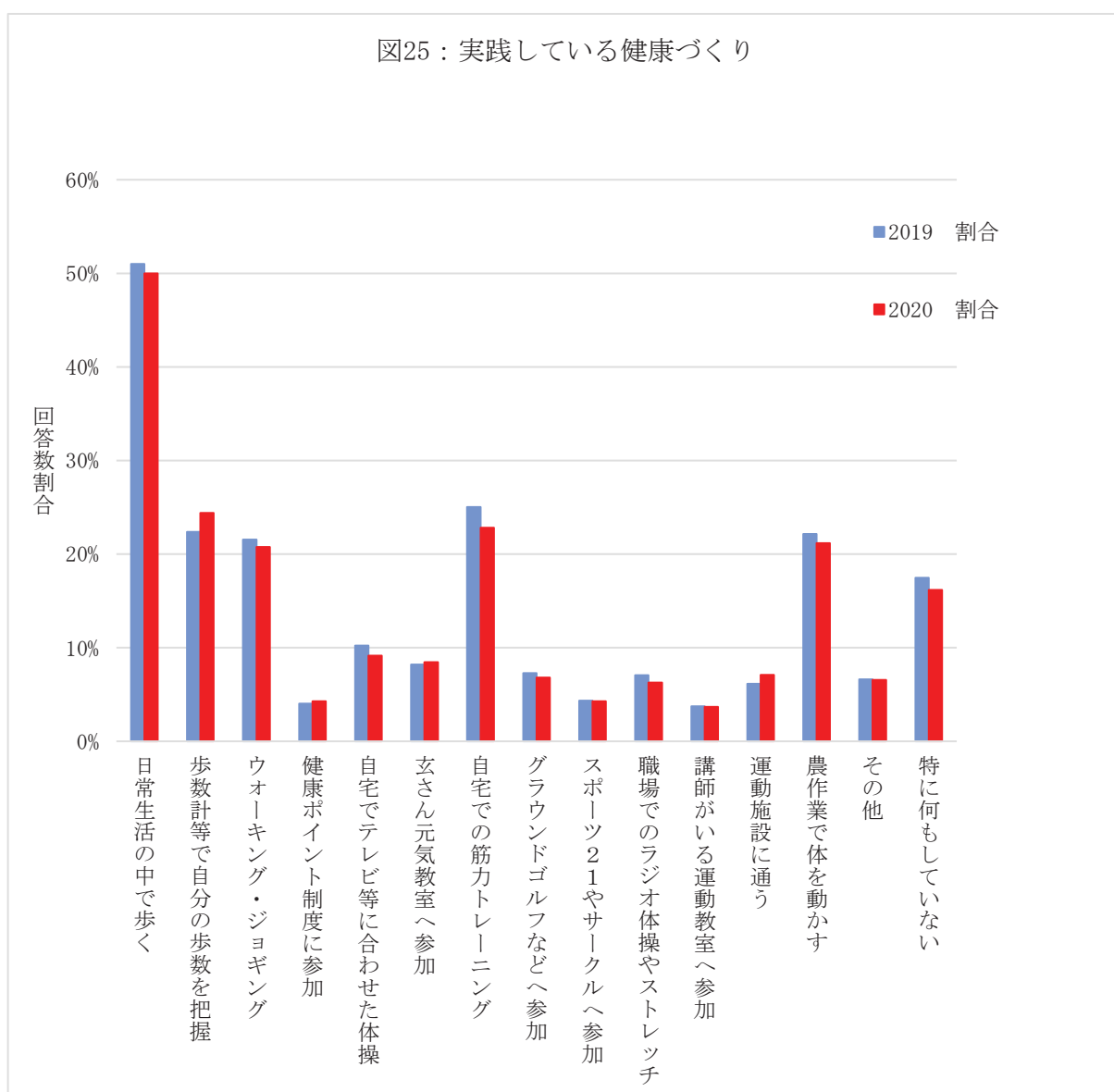
(3) 問24『あなたは1年前と比べて、「歩くこと」など体を動かす健康づくりをする回数に変化はありますか』は、手段02「楽しく体を動かす健康づくりの機会が増えている」状態を測定する設問である。

市全体では、2019年調査（回答平均値2.78）と2020年調査（回答平均値2.83）との間に統計的に有意な差はない。年齢層別にみた場合、若年層においては2019年調査（回答平均値2.84）と2020年調査（回答平均値3.17）との間に統計的に有意な差がある（ $t=2.35$   $p<0.05$ ）。

(4) 問25『あなたは体を動かす健康づくりとして、どのようなことを実践していますか』は、戦略目的及び手段04「体を動かす健康づくりを支える仕組みや環境が整っている」状態について測定する設問である。

2019年調査（青色棒グラフ）と2020年調査（赤色棒グラフ）における、回答者に占める回答数の割合を図25に示した。

2019年調査と2020年調査の項目ごとの割合に大きな変化はみられない。回答者の中で20%を超える人が実践しているのは、「日常生活の中で歩く」や「自宅での筋力トレーニング」など5項目である。



なお、「日常生活で歩く」と回答している回答者とそうでない回答者との間では、問21（健康自認度）及び問22（運動頻度）の回答に統計的に有意な差があり（問21:  $t=3.29$   $p<0.01$  問22:  $t=11.06$   $p<0.01$ ）、「日常生活で歩くようにしている」の方が高いが、問23（継続期間）の回答では統計的に有意な差はない。

選択項目ごとに男女別でカイ2乗検定を行い、下記のことになった。

ア 男性が女性より多く選択している項目

- ・「ウォーキングやジョギングをする」 (カイ2乗値=14.15 df=2 p<0.01)
- ・「地域のグラウンドゴルフなどに参加する」 (カイ2乗値=35.43 df=2 p<0.01)
- ・「農作業で体を動かしている」 (カイ2乗値=23.91 df=2 p<0.01)

イ 女性が男性より多く選択している項目

- ・「自宅でテレビやDVDに合わせて体操する」 (カイ2乗値=36.70 df=2 p<0.01)
- ・「玄さん元気教室に参加する (カイ2乗値=23.80 df=2 p<0.01)」
- ・「自宅で筋力トレーニングをする」 (カイ2乗値=8.43 df=2 p<0.05)
- ・「講師がいる運動教室に参加する」 (カイ2乗値=15.08 df=2 p<0.01)

地域別の選択数及び回答者に占める割合を表12に示した。回答者に占める割合が20%を超える選択支を着色した(燈色)。地域よって20%を超える選択肢に差がみられる。

<表12：地域別の選択者数及び回答者に占める割合>

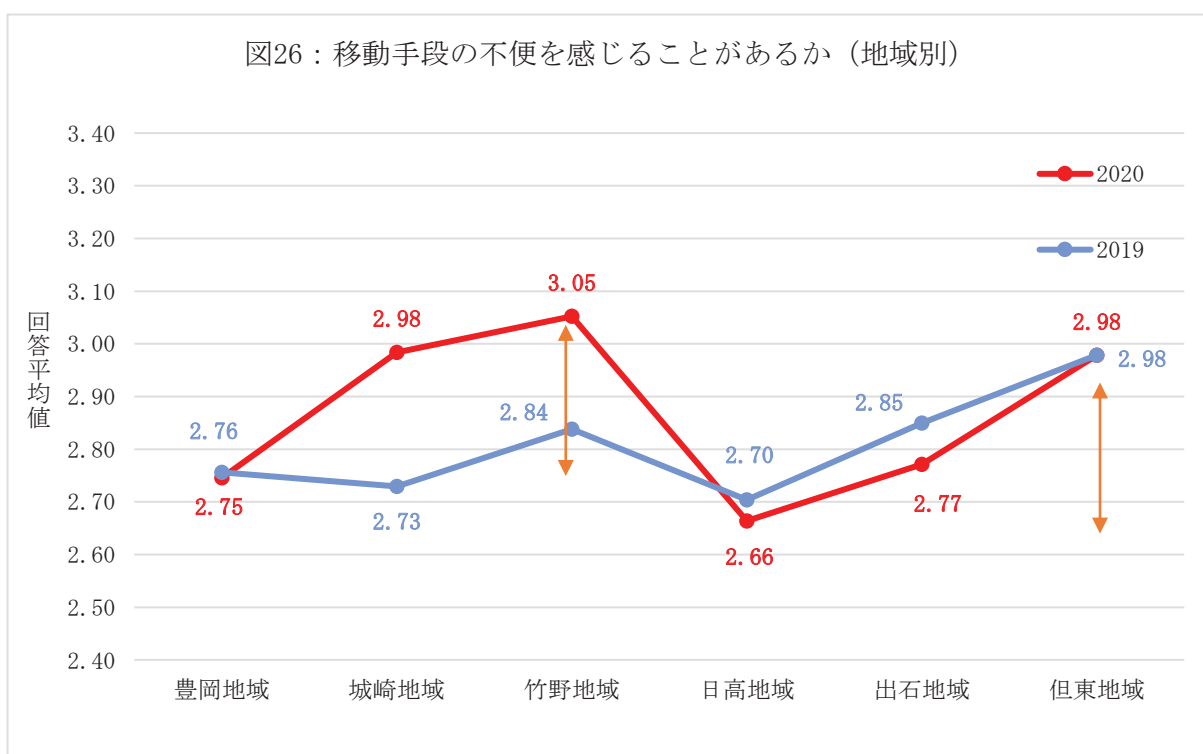
地域及び人数等 選択肢	豊岡地域		城崎地域		竹野地域		日高地域		出石地域		但東地域	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
日常生活の中で歩く	404	49.2	70	55.1	55	56.7	179	50.7	96	46.8	43	46.7
歩数計等を活用し自分の歩数を把握	219	26.7	31	24.4	21	21.6	79	22.4	51	24.9	13	14.1
ウォーキングやジョギング	180	21.9	22	17.3	13	13.4	75	21.2	44	21.5	18	19.6
健康ポイント制度に参加	38	4.6	4	3.1	4	4.1	15	4.2	11	5.4	1	1.1
自宅でテレビやDVDに合わせて体操	81	9.9	11	8.7	9	9.3	30	8.5	17	8.3	6	6.5
玄さん元気教室に参加	51	6.2	16	12.6	10	10.3	36	10.2	19	9.3	11	12.0
自宅での筋力トレーニング	195	23.8	31	24.4	18	18.6	73	20.7	56	27.3	12	13.0
地域のグラウンドゴルフなどに参加	46	5.6	7	5.5	11	11.3	29	8.2	15	7.3	7	7.6
スポーツ21やサークルに参加	34	4.1	1	0.8	8	8.2	17	4.8	8	3.9	4	4.3
職場でのラジオ体操やストレッチ	46	5.6	5	3.9	7	7.2	29	8.2	16	7.8	3	3.3
講師がいる運動教室に参加	39	4.8	6	4.7	3	3.1	8	2.3	7	3.4	0	0.0
運動施設に通う	84	10.2	4	3.1	4	4.1	15	4.2	12	5.9	2	2.2
農作業で体を動かしている	127	15.5	23	18.1	34	35.1	94	26.6	44	21.5	37	40.2
その他	47	5.7	10	7.9	3	3.1	27	7.6	16	7.8	7	7.6
特に何もしていない	150	18.3	19	15.0	12	12.4	49	13.9	28	13.7	17	18.5

## 7 公共交通について（問26～問29）

(1) 問26『あなたは外出の際、移動手段について不便に感じることがありますか』は、上位目的「目的にあった公共交通により市民の外出機会が確保されている」状態を測定する設問である。

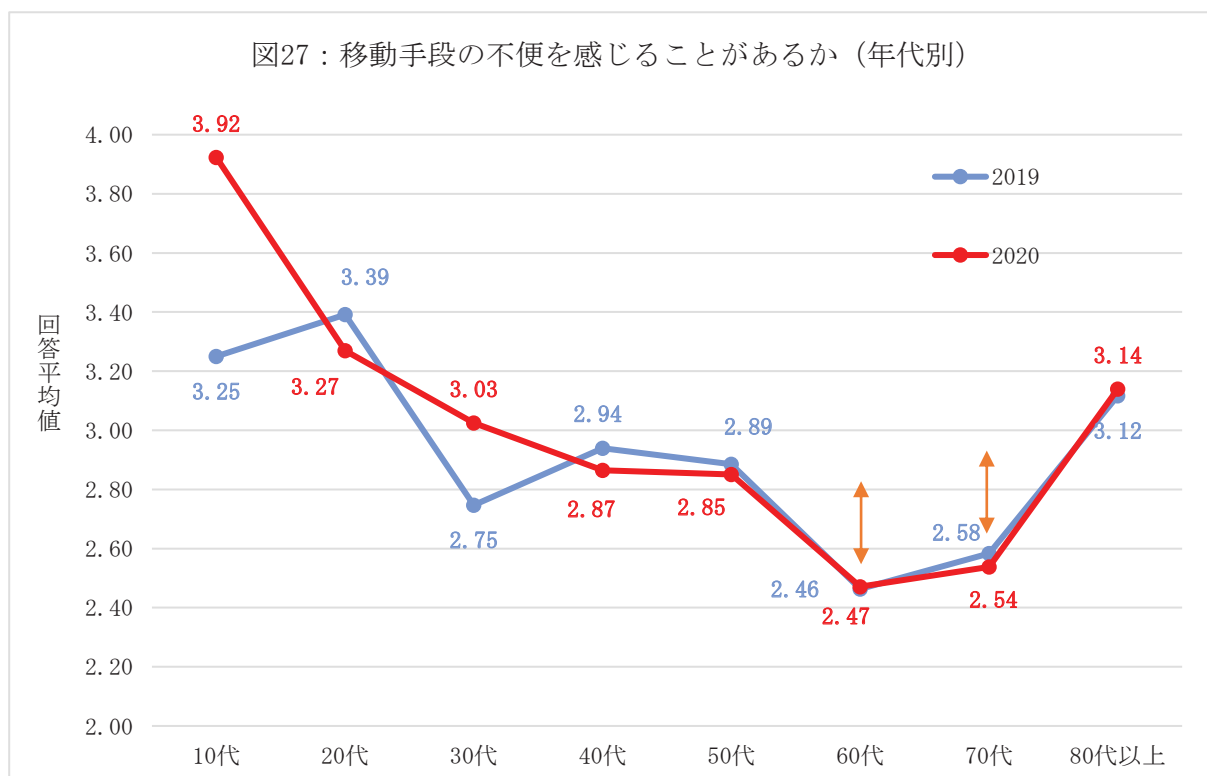
2019年調査（水色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図26のとおりである。

2020年調査においては、竹野地域と豊岡地域（ $t=2.15$   $p<0.05$ ）、竹野地域と日高地域（ $t=2.56$   $p<0.05$ ）、但東地域と日高地域（ $t=2.00$   $p<0.05$ ）との間で統計的に有意な差がある。それぞれの地域及び市全体の回答に関して、2019年調査と2020年調査との間では統計的に有意な差はない（2019年調査平均値：2.77 2020年調査：2.78）。



2019年調査（水色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、年代別の結果は図27のとおりである。

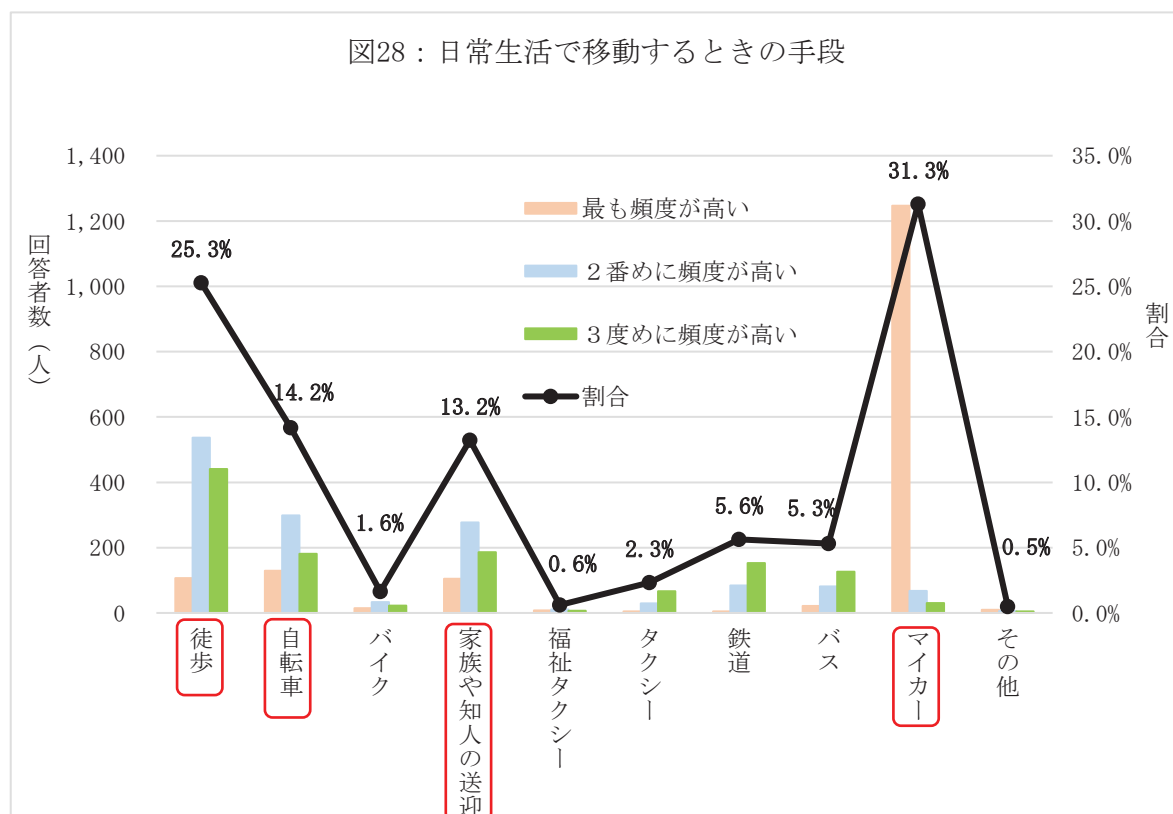
2020年調査において、60代及び70代と他の全ての年代との間で統計的に有意な差があり（ $t=2.89\sim 5.51$   $p<0.01$ ）、60代及び70代は他の年代に比べ、移動手段の不便を感じていないと言える。



(2) 問27『あなたは、日常生活で移動するとき、主にどの手段で移動しますか』は、手段01「生活基幹交通（バス、鉄道）が認知され、利用されている」状態を測定する設問である。

3番目までの選択肢に対する回答者数（順位別に橙色、水色、緑色の棒グラフ）と全回答数に占める割合（黒色折れ線グラフ）は図28のとおりである。

日常生活の移動手段は、「マイカー」が多く（31.3%）、「徒歩」（25.3%）と「自転車」（14.2%）及「家族や知人の送迎」（13.2%）が続く。この傾向は2019年調査と同じである。



地域別の回答人数及び回答者に占める割合を表13に示した、指標となる「鉄道」及び「バス」の地域別は太囲みで表示した。

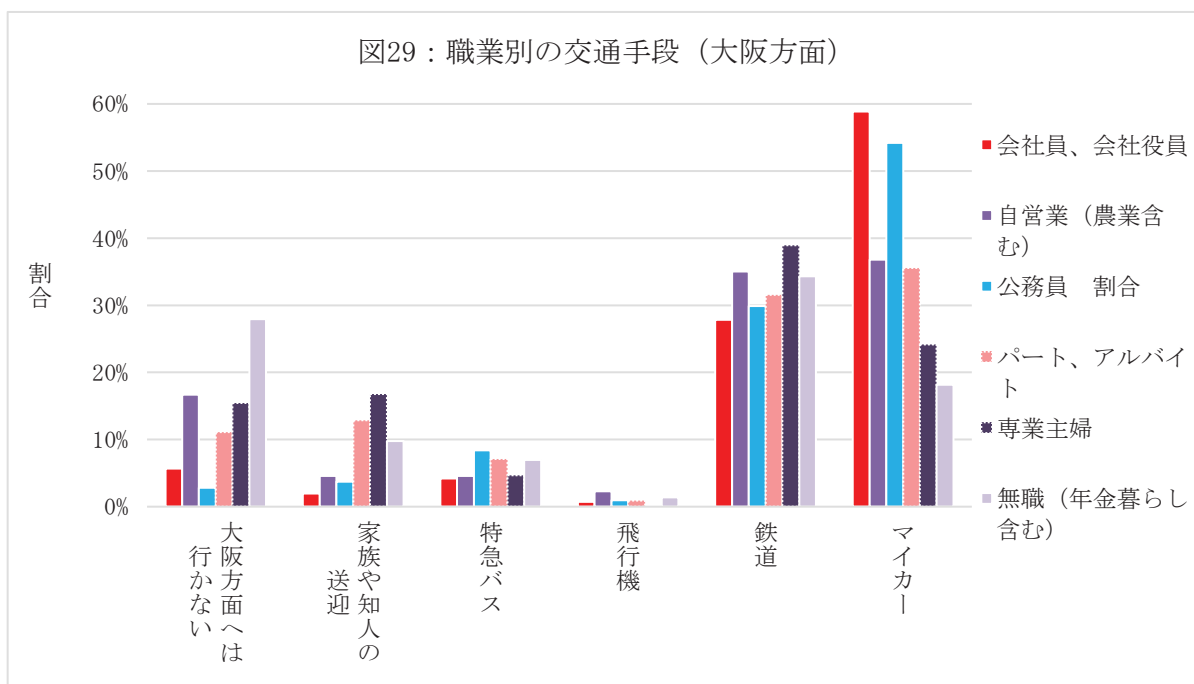
<表13：地域別の回答者数>

		徒歩	自転車	バイク	家族や 知人の 送迎	福祉タ クシー	タクシー	鉄道	バス	マイカー	その他
豊岡	人数 (人)	538	338	26	279	16	77	105	107	629	10
	割合 (%)	25.3	15.9	1.2	13.1	0.8	3.6	4.9	5.0	29.6	0.5
城崎	人数 (人)	79	44	9	34	2	5	17	20	100	2
	割合 (%)	25.3	14.1	2.9	10.9	0.6	1.6	5.4	6.4	32.1	0.6
竹野	人数 (人)	54	27	3	34	2	2	15	18	76	0
	割合 (%)	23.4	11.7	1.3	14.7	0.9	0.9	6.5	7.8	32.9	0.0
日高	人数 (人)	227	103	15	121	1	8	75	40	286	2
	割合 (%)	25.9	11.7	1.7	13.8	0.1	0.9	8.5	4.6	32.6	0.2
出石	人数 (人)	130	79	10	63	2	5	19	24	177	3
	割合 (%)	25.4	15.4	2.0	12.3	0.4	1.0	3.7	4.7	34.6	0.6
但東	人数 (人)	49	15	6	33	2	1	9	14	69	3
	割合 (%)	24.4	7.5	3.0	16.4	1.0	0.5	4.5	7.0	34.3	1.5

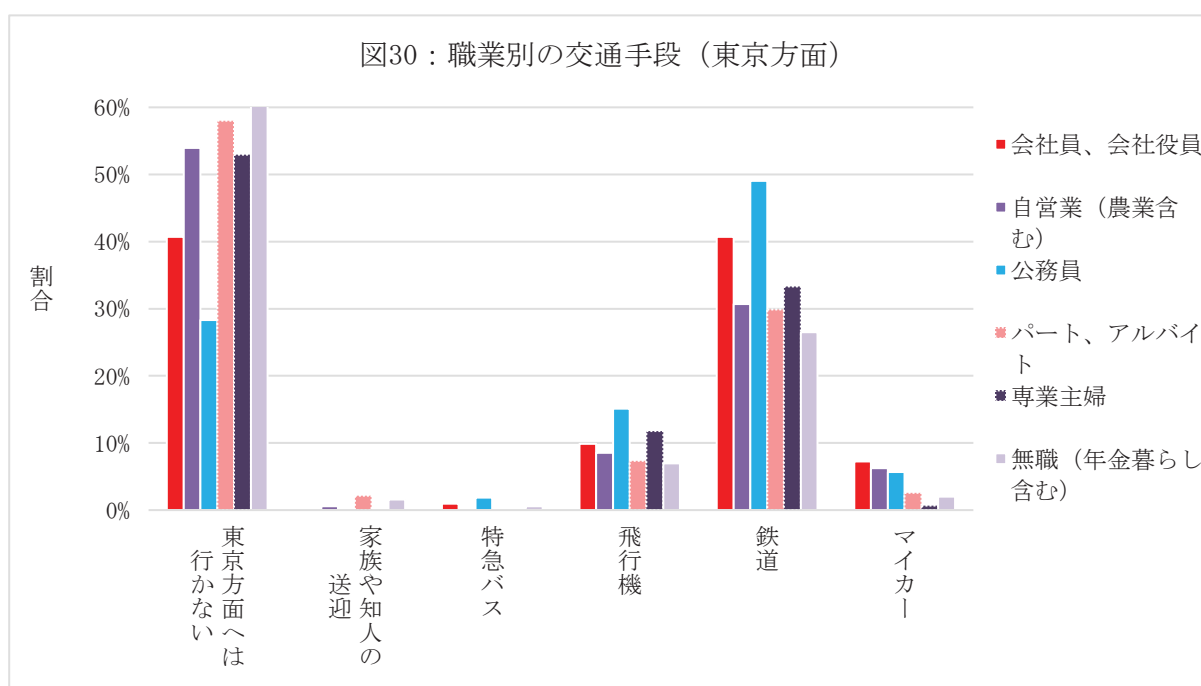
(3) 問28及び問29『あなたは大阪（東京）方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか』は、手段02「ビジネス・観光基幹交通（飛行機、特急バス/鉄道）」が認知され、利用されている」状態を測定する設問である。

職業別の交通手段の回答者に占める割合について、回答者が少ない職業（「学生」、 「NGO、NPO」及び「その他」）以外の結果は図29及び図30のとおりである。

大阪方面に関して、「自営業」は「鉄道」及び「マイカー」がほぼ同じ割合である。「会社員」及び「公務員」については、「鉄道」より「マイカー」の割合が高い。「専業主婦」は「マイカー」より「鉄道」の方が多。



東京方面に関しては、「公務員」以外は高い割合で東京方面には行かないと回答している。「公務員」の約5割は、「鉄道」を利用すると回答している。





(4) 飛行機利用と交通の便利さとの関係を調べるため、2020年調査における問26の回答について、「飛行機」と「鉄道」についてt検定を行った。その結果、問26の回答について、「飛行機」と「鉄道」との間で統計的に有意な差があった ( $t=2.29$   $p<0.05$ )。「飛行機」を利用している人は、「鉄道」を利用している人よりも、交通の便利さを感じていると言える。

なお、この結果は2019年調査にはみられなかったものであるため、今後継続してモニタリングする必要がある。

## 8 食と農業について（問30～問31）

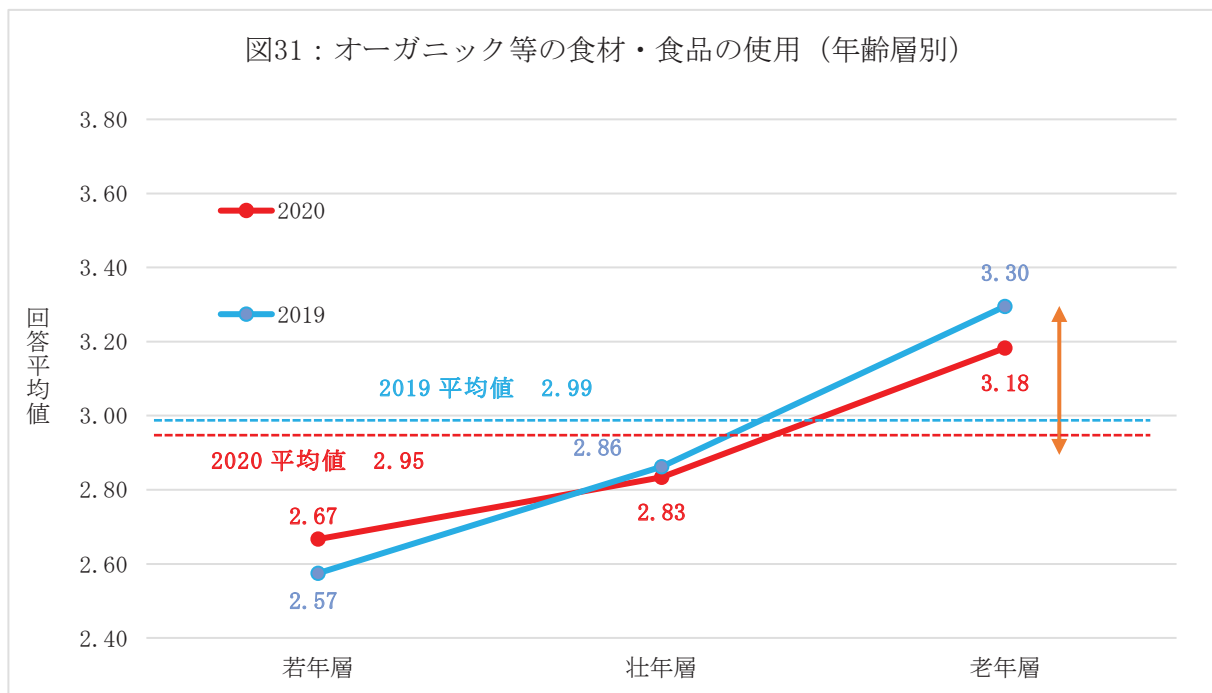
問30及び問31は、上位目的「環境創造型農業により農村に子供たちの笑顔があふれ、農村は活気に満ちている」の戦略体系図の手段に関する設問である。

戦略目的「環境創造型農業により農家所得が増えている」状態については、測定対象となる母集団が少数のため、市民一般に対するアンケートでは信頼性のある測定を実施することはできない。したがって、戦略目的の状態の測定は、所管課が把握している対象者の聞き取り調査等により実施されたい。

(1) 問30『あなたは家庭で作る食事に、オーガニック、無農薬、減農薬の食材・食品を使っていますか』は、手段03「環境創造型農産物のファンが増え、高付加価値の人気商品となっている」状態を測定する質問である。

2019年調査（水色折れ線）と2020年調査における回答平均値について、年齢層別の結果は図31のとおりである。

2019年調査と同様に、2020年調査においても老年層と若年層及び壮年層との間で統計的に有意な差があり（ $t=3.50$   $5.27$   $p<0.01$ ）、老年層は他の年齢層に比べ、オーガニック等の食材・食品の使用頻度は多いと言える。



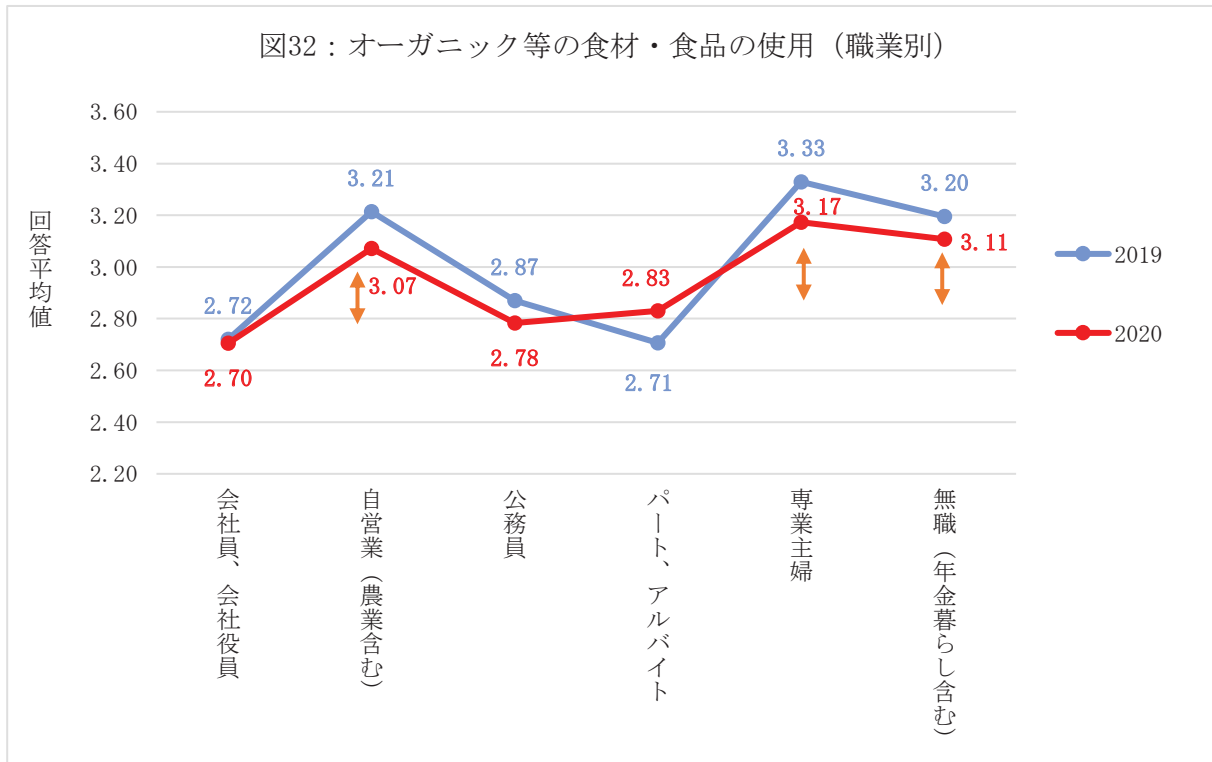
2019年調査と同様に、2020年調査においても男女の間で統計的に有意な差があり（ $t=4.35$   $p<0.01$ ）、女性の方が男性よりオーガニック等の食材・食品の使用頻度は多いと言える。

地域別では統計的に有意な差はない。

市全体の回答についても、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。

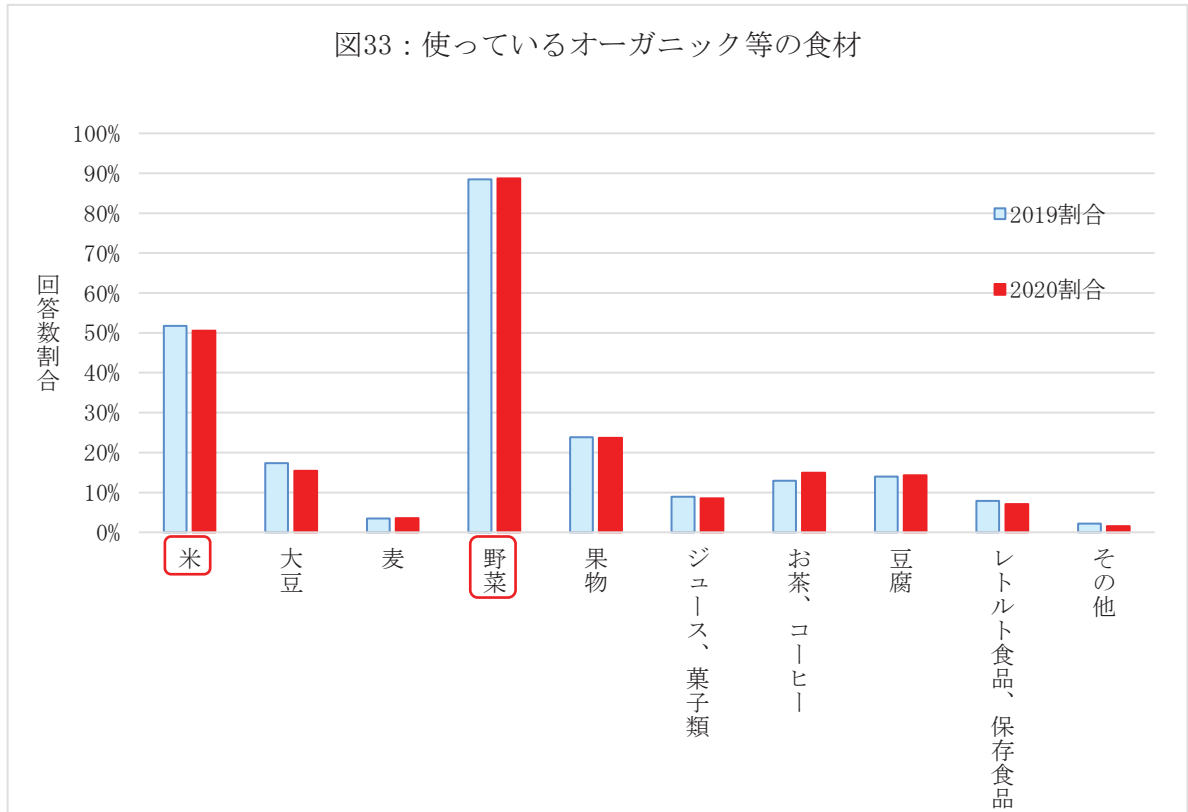
2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、職業別の結果は図32のとおりある。

両調査とも共通した特徴がみられたため、2020年調査についてt検定を行い職業間の差を確認した。その結果、「自営業」、「専業主婦」及び「無職」と「会社員」、「公務員」及び「パート、アルバイト」との間について統計的に有意な差があった（ $t=4.08 \sim 2.57$   $p<0.05$ ）。オーガニック等の食材・食品を使用頻度は、職業別で差がある可能性がある。



(2) 問31『使っているオーガニック、無農薬、減農薬の食材はどのようなものですか』は、問30の具体的な内容を問う設問である。

2019年調査（青色棒グラフ）と2020年調査（赤色棒グラフ）における、回答者に占める回答数の割合を図33に示した。「野菜」及び「米」を使っていると回答する人が多い。



その他の項目は、「ジャム」、「小豆」、「飲料水」、「玉子」、「調味料」、「油脂類」、「味噌」及び「果実酒」である。

## 9 地域の歴史、伝統、文化芸術（問32～問37）

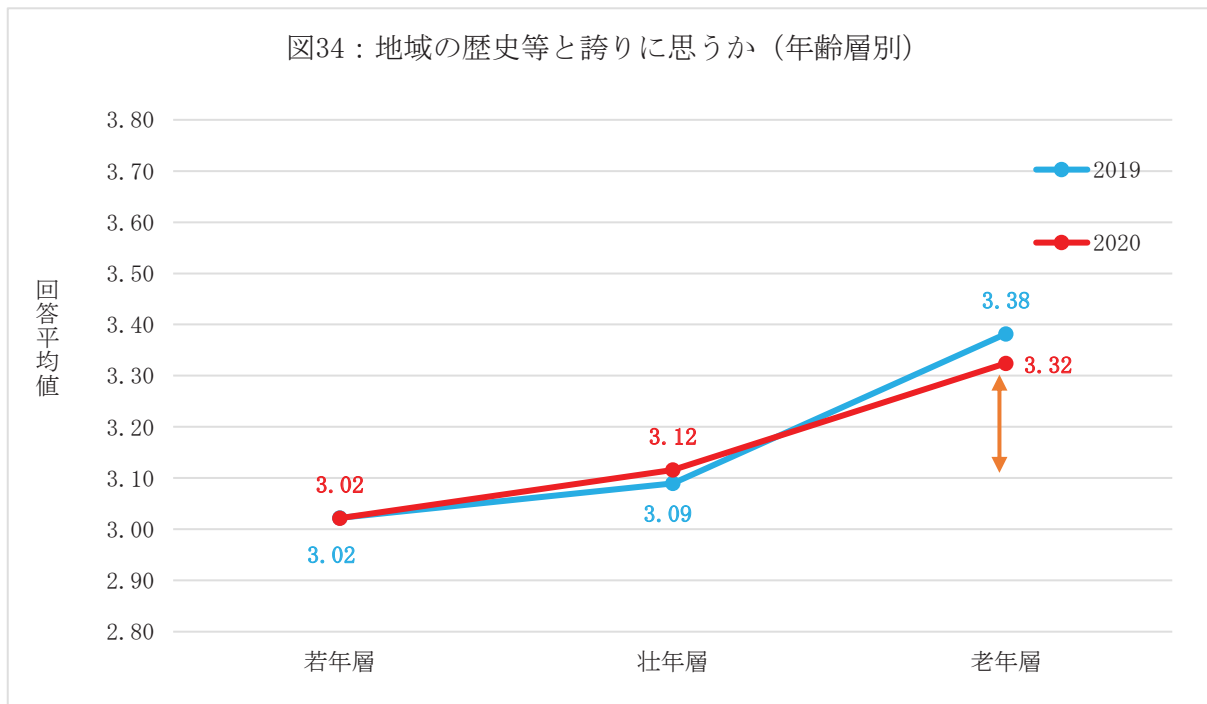
問32から問34は、上位目的「地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、引き継がれている」に関する設問、問35から問37は、上位目的「優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる」に関する設問である。

(1) 問32『あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか』は、戦略目的「市民が、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、年齢層別の結果は図34のとおりである。

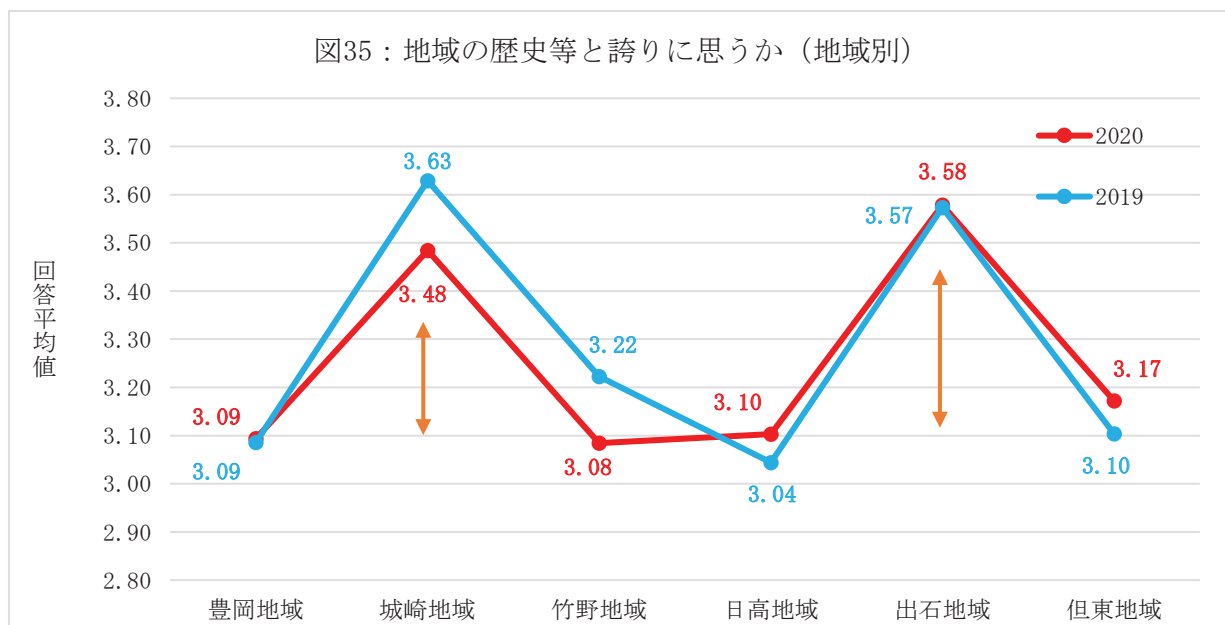
2019年調査と同様に、老年層と若年層（ $t=2.49$   $p<0.05$ ）及び壮年層（ $3.62$   $p<0.01$ ）との間に統計的に有意な差がある。老年層は他の年齢層に比べ、地域の歴史等を誇りに思っていると言える。

全体の回答平均値は2019年調査と同値（3.18）である。



2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果を図35に示した。

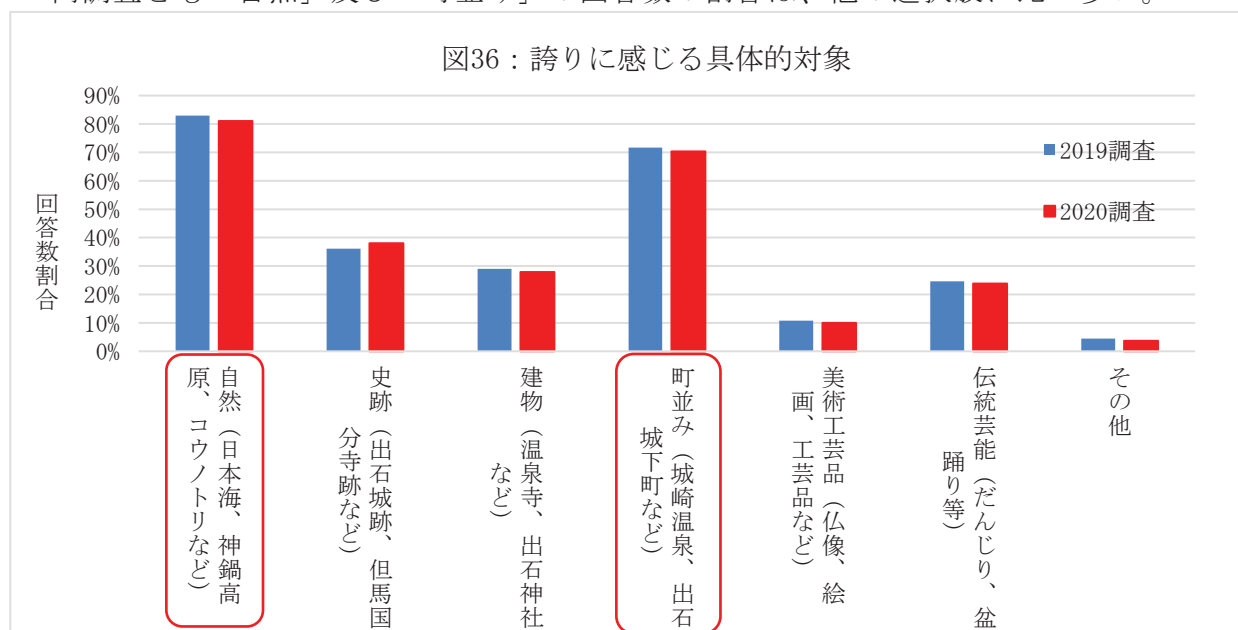
2019年調査と同様に、城崎地域及び出石地域と他の地域との間で統計的に有意な差がある（ $t=5.74\sim 2.00$   $p<0.05$ ）。城崎地域及び出石地域は他の地域と比べ、地域の歴史等を誇りに思っていると言える。



(2) 問33『あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか』は、手段01「市民が地域の歴史、伝統、文化に日常生活の中で触れている」状態を測定するために、誇りに感じる具体的対象を問う設問である。

2019年調査（青色棒グラフ）と2020年調査（赤色棒グラフ）について、回答者に占める回答数の割合を図36に示した。

両調査とも「自然」及び「町並み」の回答数の割合は、他の選択肢に比べ多い。

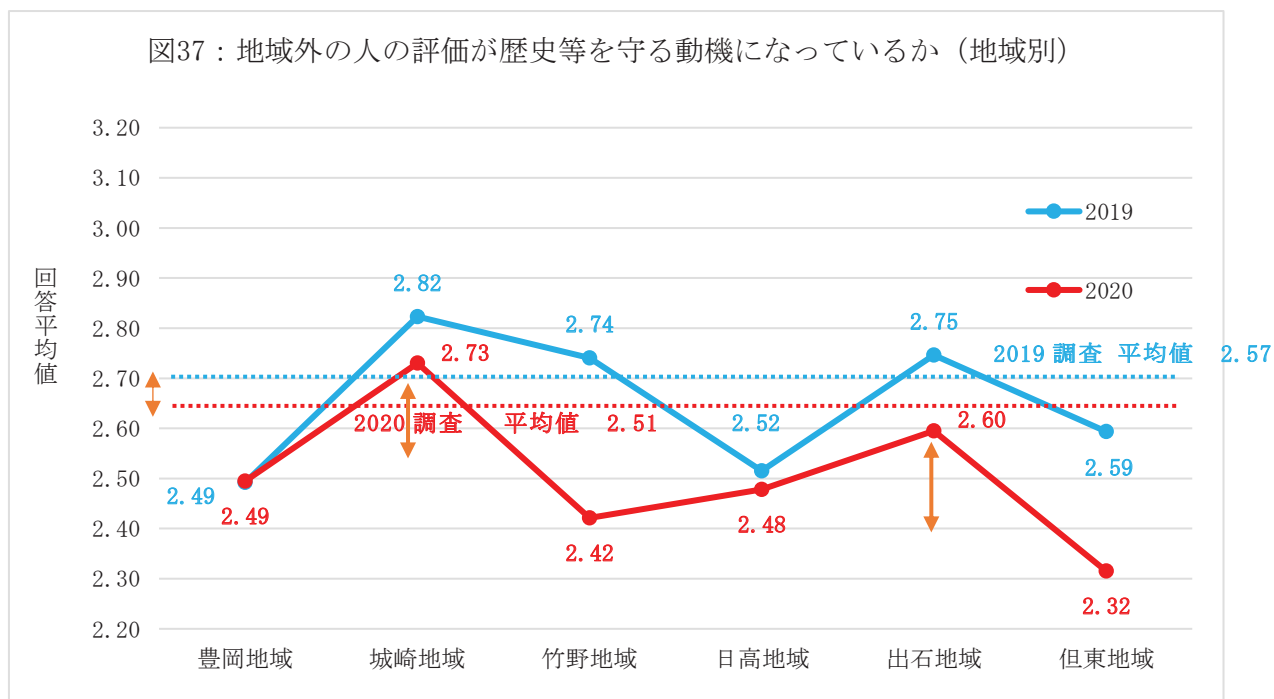


(3) 問34『あなたは、市外の人やマスメディア、SNSなどの評価によって、豊岡の歴史、伝統、文化の素晴らしさに気付かされたことはありますか』は、手段02「地域の歴史、伝統、文化に対する地域外からの評価が、地域の人が自らの歴史、伝統、文化を守る動機の一つとなっている」状態を測定するための設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図37のとおりである。

2020年調査において、城崎地域と出石地域以外の全ての地域との間で統計的に有意な差がある（ $t=2.95\sim 2.00$   $p<0.05$ ）。また、出石地域と但東地域との間にも統計的に有意な差がある（ $t=2.23$   $p<0.05$ ）。城崎地域及び出石地域は他の地域に比べ、市外の人々の評価によって歴史等の素晴らしさに気付かされる頻度は多いと言える。

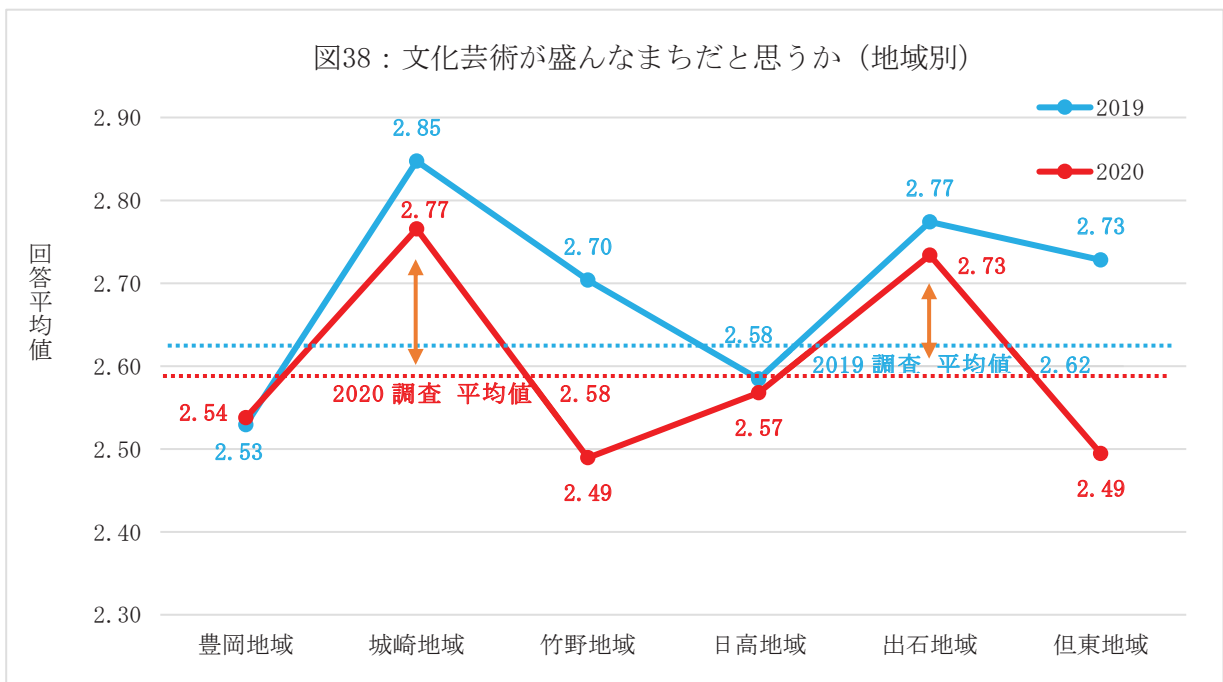
市全体の回答について、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差がある（ $t=2.01$   $p<0.05$ ）。2020年調査は2019年調査よりも、市外の人々の評価によって歴史等の素晴らしさに気付かされる頻度が少なくなったと言える。



(4) 問35『あなたは、豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思えますか』は、戦略目的「人々が世界中からやってきたアーティスト、クリエイター等の文化芸術を鑑賞している」状態を測定するための設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図38のとおりである。

2020年調査において、城崎地域と出石地域以外の全ての地域との間に統計的に有意な差がある（ $t=1.98\sim 2.49$   $p<0.05$ ）。また、出石地域と豊岡地域との間に統計的に有意な差がある（ $t=2.57$   $p<0.05$ ）。城崎地域及び出石地域は他の地域に比べ、豊岡市が文化芸術の盛んなまちだと思っていると言える。



市全体及び全ての地域について、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。

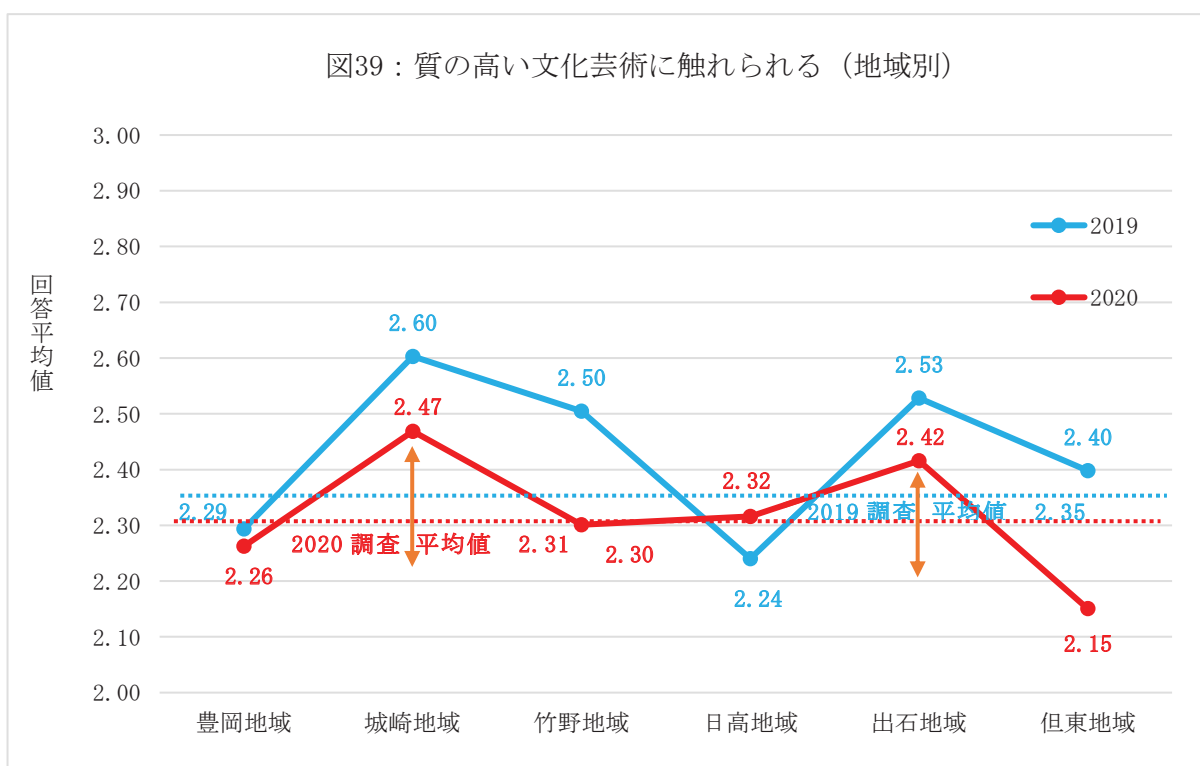
男女の間では、2019年調査と2020年調査の両調査において統計的に有意な差があり（ $t=4.22\sim 4.38$   $p<0.01$ ）、女性は男性よりも、豊岡市が文化芸術の盛んなまちだと思っていると言える。



(5) 問36『あなたは、一流のアーティストが創作する舞台芸術や芸術作品など、質の高い文化芸術に気軽に触れられる機会が多いまちだと思いますか』は、手段01「優れた文化芸術に身近に触れられる環境が整っている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図39のとおりである。

2020年調査において、城崎地域と豊岡地域 ( $t=2.18$   $p<0.05$ ) 及び但東地域 ( $t=2.33$   $p<0.05$ ) との間に統計的に有意な差がある。また、出石地域と豊岡地域 ( $t=1.97$   $p<0.05$ ) 及び但東地域 ( $t=2.13$   $p<0.05$ ) との間にも統計的に有意な差がある。城崎地域及び出石地域は豊岡地域及び但東地域よりも、質の高い文化芸術に触れられる機会が多いと感じていると言える。



市全体及び全ての地域について、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。

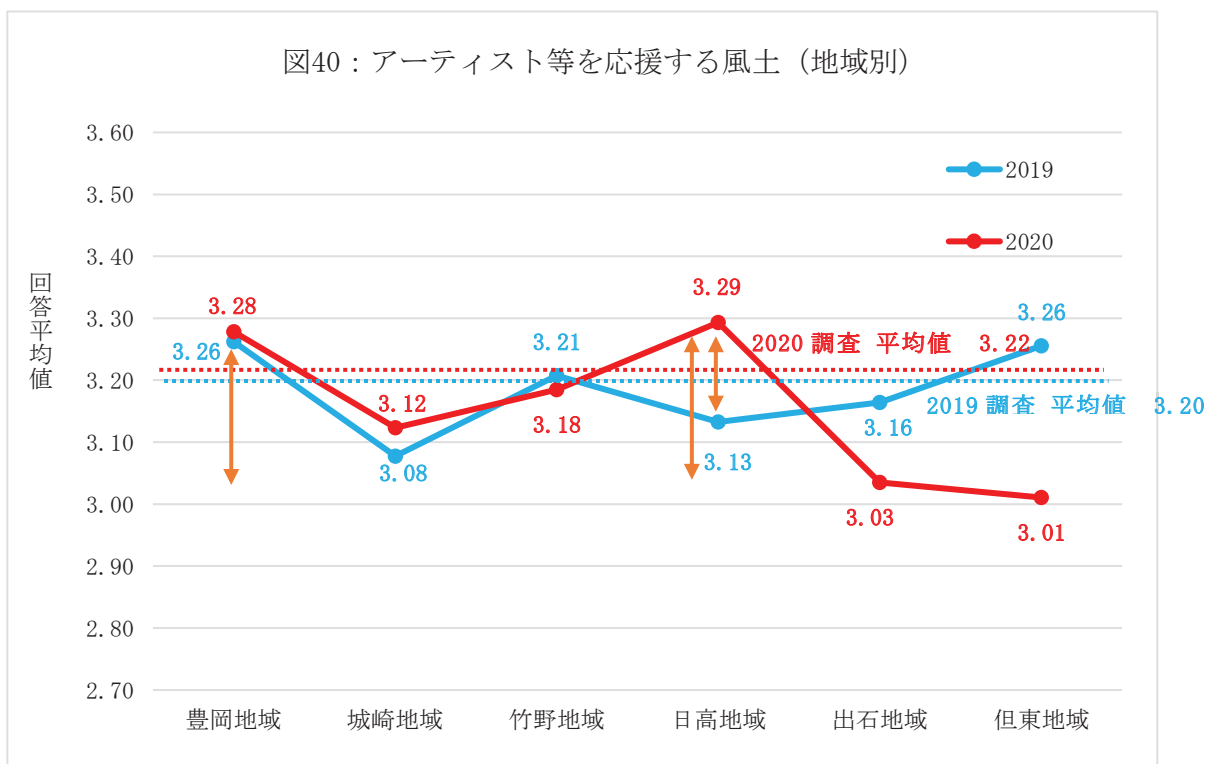
男女の間では、2019年調査と2020年調査の両調査において統計的に有意な差があり ( $t=3.46\sim4.91$   $p<0.01$ )、女性は男性よりも、優れた文化芸術に触れられる機会が多いと感じていると言える。

(6) 問37『あなたは、豊岡市で活動するアーティストやクリエイターを応援したいと思いますか』は、手段0203「アーティスト・クリエイター等を応援する風土が育っている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図40のとおりである。

2020年調査において、豊岡地域と出石地域 ( $t=3.08$   $p<0.05$ ) 及び但東地域 ( $t=2.45$   $p<0.01$ ) との間に統計的に有意な差がある。また、日高地域と出石地域 ( $t=2.83$   $p<0.01$ ) 及び但東地域 ( $t=2.42$   $p<0.01$ ) との間に統計的に有意な差がある。豊岡地域及び日高地域は出石地域及び但東地域よりも、アーティスト等を応援したいと思っていると言える。

日高地域については、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差がある ( $t=2.05$   $p<0.05$ )。2020年調査の日高地域は2019年調査に比べ、アーティスト等を応援する風土が高まっていると言える。



市全体では2019年調査と2020年調査との間には統計的に有意な差はない。

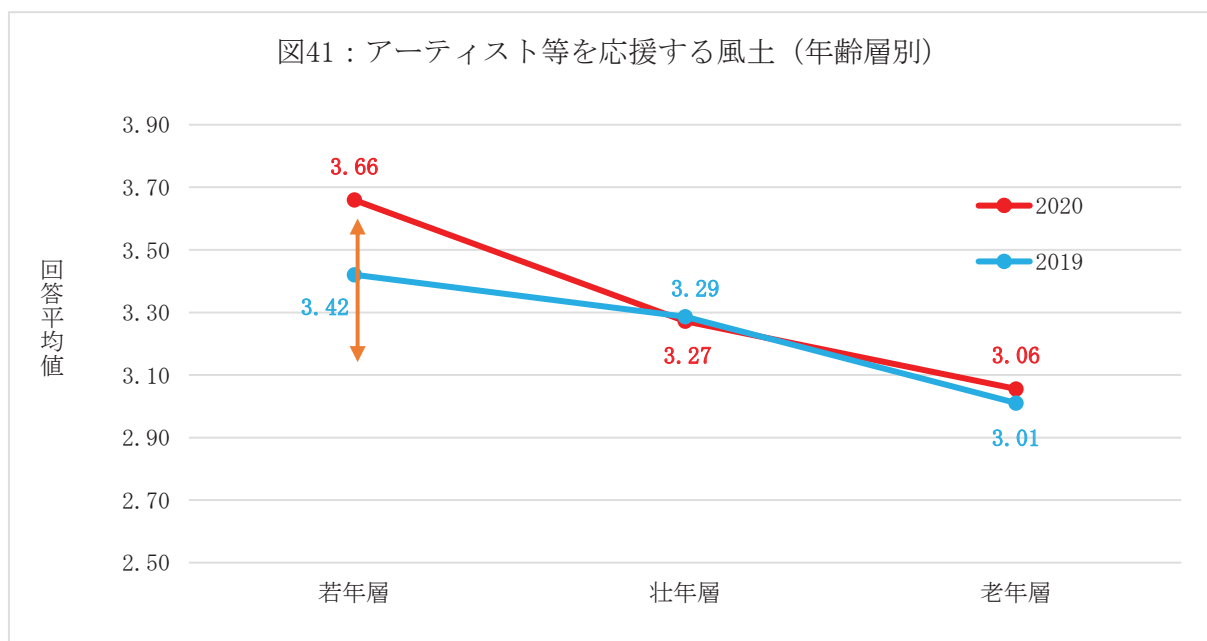
男女の間では、2019年調査と2020年調査の両調査において統計的に有意な差があり ( $t=2.63$   $3.62$   $p<0.01$ )、女性は男性よりもアーティスト等を応援したいと思っていると言える。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、年齢層別の結果は図41のとおりである。

2020年調査において、若年層と壮年層( $t=3.53$   $p<0.01$ )及び老年層( $t=5.25$   $p<0.01$ )の間には統計的に有意な差がある。

2019年調査においては、若年層と老年層との間に統計的に有意な差がある ( $t=3.64$   $p<0.01$ )。

以上のことから、若年層は壮年層及び老年層よりも、アーティスト等を応援したいと思っていると言える。



## 10 防災について（問38～問44）

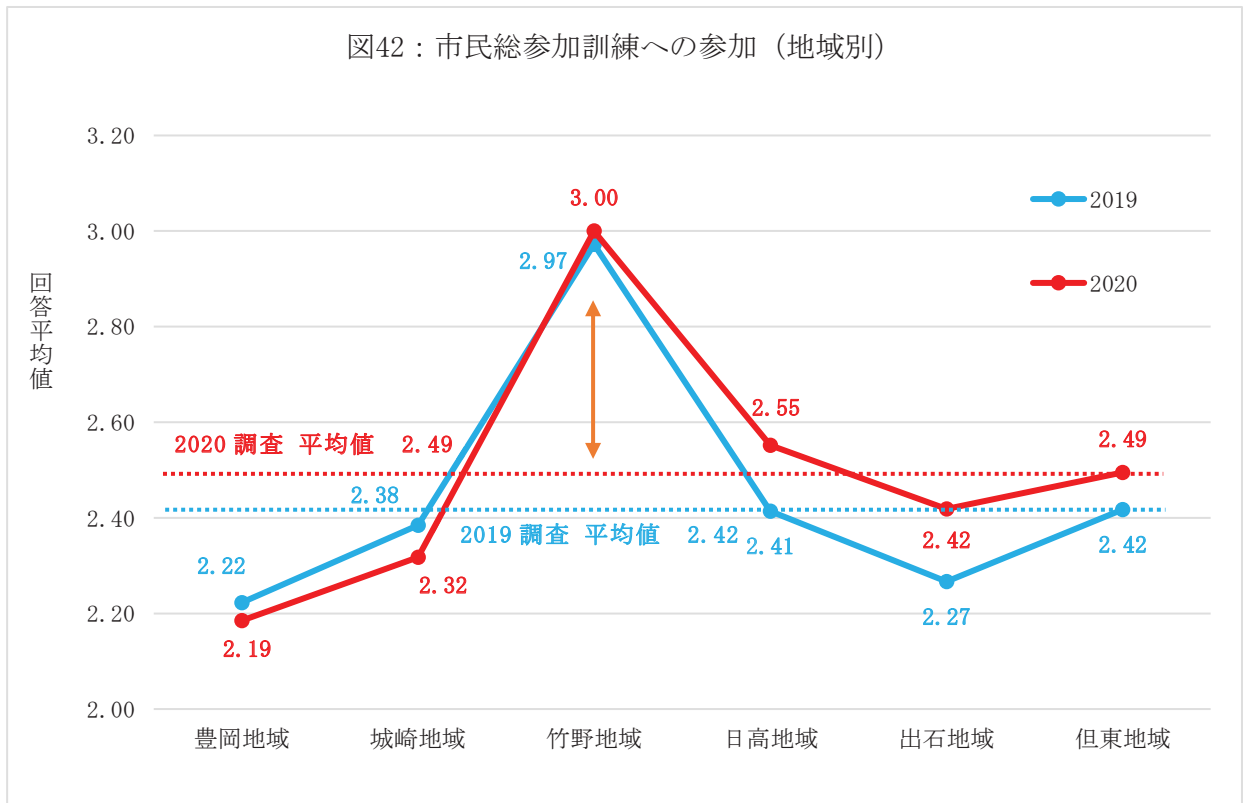
問38から問44は、上位目的「災害に備え、地域の防災力が高まっている」に関する設問である。

- (1) 問38『あなたは、市民総参加訓練に参加していますか』は、戦略目的「市民と行政が協働して防災に取り組んでいる」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図42のとおりである。

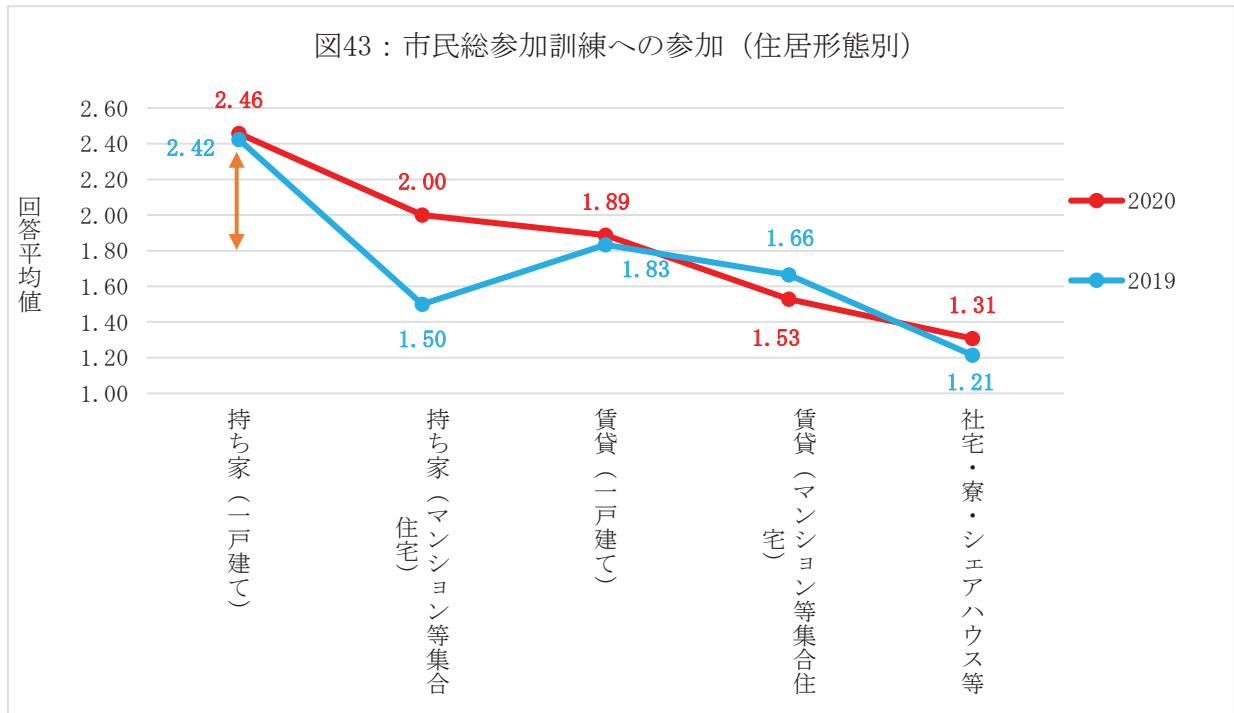
2020年調査において、竹野地域は他の全ての地域と統計的に有意な差がある（ $t=3.12 \sim 6.66$   $p<0.01$ ）。竹野地域は他の地域よりも、多くの頻度で市民総参加訓練に参加していると言える。

市全体の回答については、2019年調査と2020年調査との間に統計的に有意な差はない。



2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）の回答平均値について、住居形態別の結果は図43のとおりである。

「持ち家（一戸建て）」と「賃貸（一戸建て）」、「賃貸（マンション等集合住宅）」及び「社宅・寮・シェアハウス等」との間で統計的に有意な差がある（ $t=10.76$   $p<0.01$ ）。「持ち家（一戸建て）」は、「賃貸（一戸建て）」、「賃貸（マンション等集合住宅）」及び「社宅・寮・シェアハウス等」よりも市民総参加訓練への参加頻度は多いと言える。



(2) 問39『参加したことがないのはなぜですか』は、市民総参加訓練に参加できない理由を探る設問である。

地域別の回答者数のうち30%を超える理由を燈色着色し、表14に示した。

「市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない」及び「仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない」の回答が多い。

<表14：市民総参加訓練に参加できない理由（地域別）>

		自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない	市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない	仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない	訓練が役に立つとは思えない	関心がない	あまり人と付き合いたくない	転入したばかりなのでまだ機会がない	その他
豊岡地域	人数(人)	19	118	113	12	50	23	18	38
	割合(%)	4.9	30.2	28.9	3.1	12.8	5.9	4.6	9.7
城崎地域	人数(人)	5	16	16	1	4	0	1	6
	割合(%)	10.2	32.7	32.7	2.0	8.2	0.0	2.0	12.2
竹野地域	人数(人)	1	2	6	0	2	0	1	0
	割合(%)	8.3	16.7	50.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0
日高地域	人数(人)	13	40	26	2	17	12	3	6
	割合(%)	10.9	33.6	21.8	1.7	14.3	10.1	2.5	5.0
出石地域	人数(人)	6	14	31	1	9	2	2	6
	割合(%)	8.5	19.7	43.7	1.4	12.7	2.8	2.8	8.5
但東地域	人数(人)	4	4	12	0	2	3	0	3
	割合(%)	14.3	14.3	42.9	0.0	7.1	10.7	0.0	10.7

住居形態別の回答数の割合が最も高い理由を燈色着色し、表15に示した。

この場合も、「市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない」及び「仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない」の回答が多い。

<表15：住居形態別の回答数>

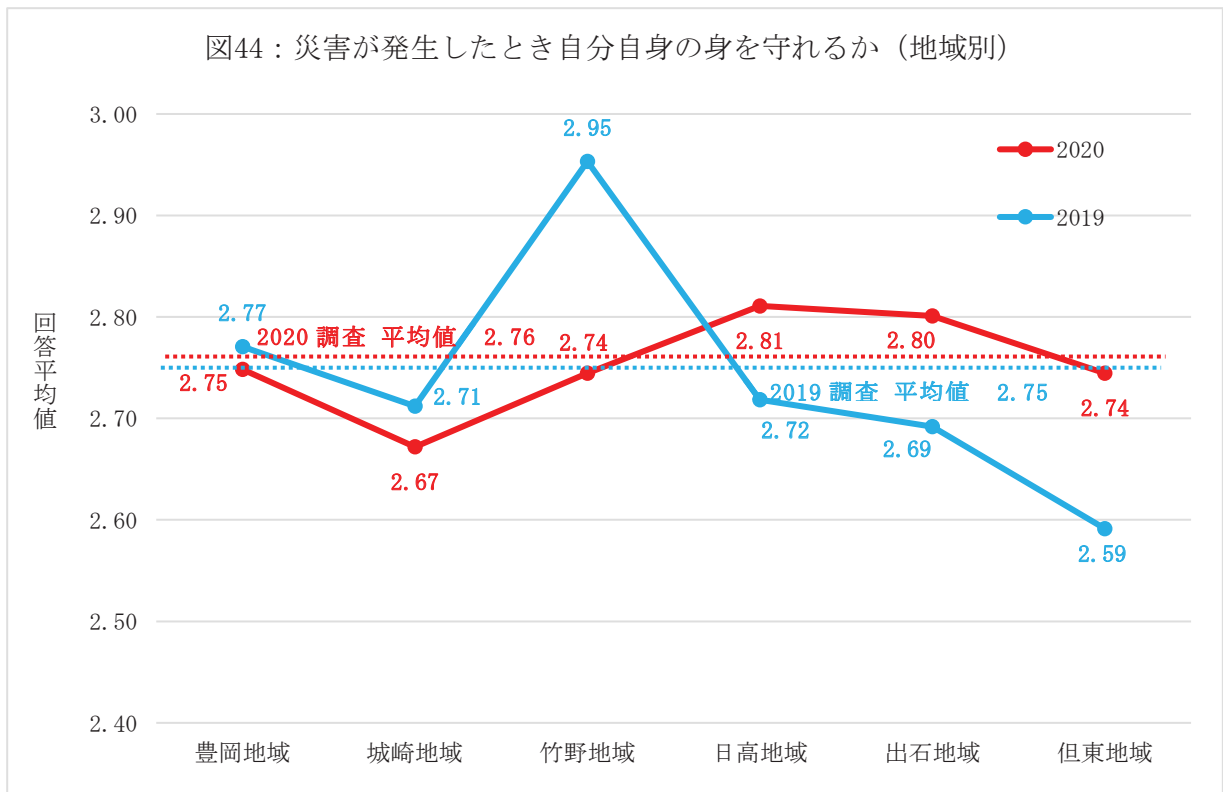
		自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない	市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない	仕事や家事、育児、学業などで時間がとれない	訓練が役に立つとは思えない	関心がない	あまり人と付き合いたくない	転入したばかりなのでまだ機会がない	その他
持ち家 (一戸建て)	人数(人)	43	137	153	13	71	24	8	49
	割合(%)	9.5	30.1	33.6	2.9	15.6	5.3	1.8	10.8
持ち家 (マンション等集合住宅)	人数(人)	1	2	1	0	1	0	0	1
	割合(%)	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
賃貸 (一戸建て)	人数(人)	0	11	11	1	1	3	2	1
	割合(%)	0.0	36.7	36.7	3.3	3.3	10.0	6.7	3.3
賃貸 (マンション等集合住宅)	人数(人)	3	34	37	1	11	13	15	6
	割合(%)	2.6	29.1	31.6	0.9	9.4	11.1	12.8	5.1
社宅・寮 シェアハウス等	人数(人)	0	7	3	1	0	0	1	1
	割合(%)	0.0	53.8	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7

(3) 問40『あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思いますか』は、手段01「市民一人一人が正しい防災知識を身に付け、自分自身の身を守る行動がとれている」状態を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果を図44に示した。

市全体について、2019年調査と2020年調査の間には統計的に有意な差はない。

2020年調査について、地域間で統計的に有意な差はない。



(4) 問41『あなたは次の防災活動に参加したことがありますか』は、手段02「自主防災組織の活動が活発に行われている」状態を測定する設問である。

地域別の回答者数とその割合を表16に示した。

「区で行われる訓練」は過半数の回答者が選択している。

<表16：回答者数とその割合>

		区で行われる訓練（市民総参加訓練以外）	市政出前講座	区、コミュニティで行われる防災ワークショップ	防災学習会	北但大震災メモリアル写真展	台風23号メモリアル写真展
豊岡	人数（人）	473	49	100	74	67	94
	割合（％）	55.2	5.7	11.7	8.6	7.8	11.0
城崎	人数（人）	78	5	12	8	8	8
	割合（％）	65.5	4.2	10.1	6.7	6.7	6.7
竹野	人数（人）	68	4	12	8	6	5
	割合（％）	66.0	3.9	11.7	7.8	5.8	4.9
日高	人数（人）	198	22	58	27	19	26
	割合（％）	56.6	6.3	16.6	7.7	5.4	7.4
出石	人数（人）	122	12	31	18	5	10
	割合（％）	61.6	6.1	15.7	9.1	2.5	5.1
但東	人数（人）	49	2	7	4	2	6
	割合（％）	70.0	2.9	10.0	5.7	2.9	8.6

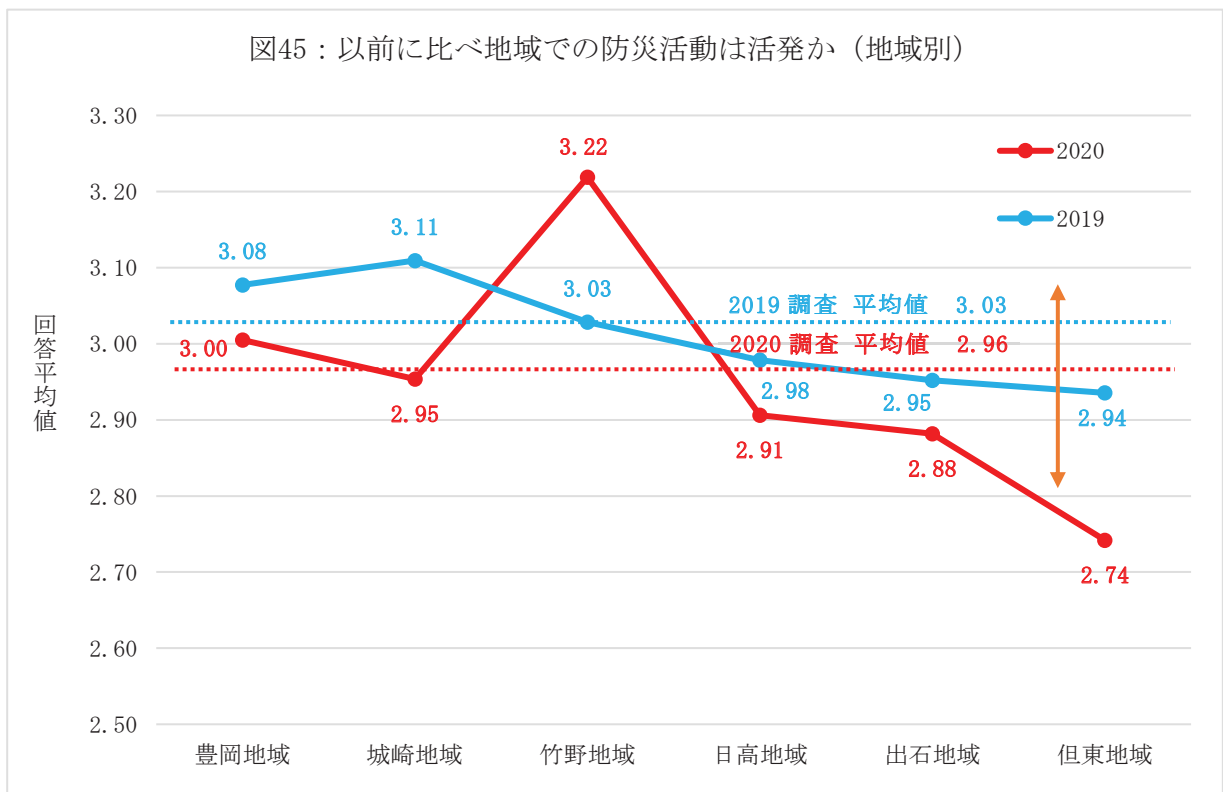


(5) 問42『あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか』は、手段02を測定する設問である。

2019年調査（青色折れ線）と2020年調査（赤色折れ線）における回答平均値について、地域別の結果は図45のとおりである。

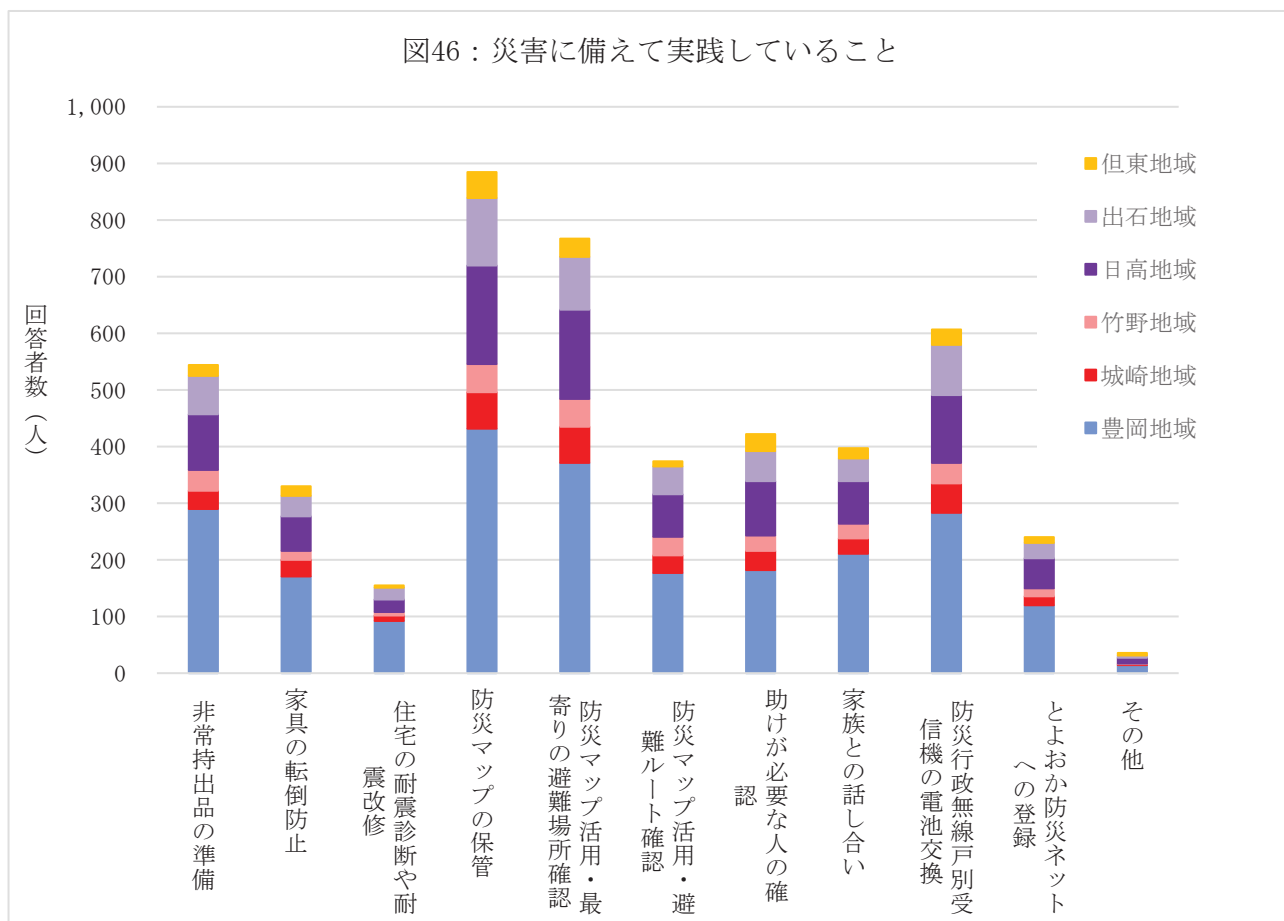
市全体及び各地域について、2019年調査と2020年調査との間で統計的に有意な差はない。

2020年調査においては、但東地域は豊岡地域（ $t=2.36$   $p<0.05$ ）及び竹野地域（ $t=2.67$   $p<0.01$ ）と統計的に有意な差がある。但東地域は豊岡地域及び竹野地域より、以前より防災活動は活発に行われていると感じられていないと言える。



(6) 問43『あなたは災害に備えて次のことを実践していますか』は、手段02及び手段03「災害時に適切な避難行動ができる環境が整っている」状態を測定する設問である。  
2020年調査における地域別の結果は図46のとおりである。

2019年調査と同様に「防災マップの保管」及び「防災マップによる避難場所の確認」が多く、市民に実践されている。



地域別の差は特にみられない。

(7) 問44『「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか』は、手段01の状態の中で、特に近年重要になっている「特別警報」についての知識を問う設問である。

2020年調査における男女別の結果は表17のとおりである。

カイ2乗検定（残差分析<sup>(注5)</sup>）の結果、「まったく知らなかった」、「聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった」及び『「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた』について、男女の間で回答に統計的に有意な差があり（着色部分が多い）、男性は女性より「特別警報」についての知識があると言える（カイ2乗値=31.03(df=3、p<0.01)）。

<表17：男女別の回答者数及び割合>

		男性		女性	
		人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）
「特別警報」について	まったく知らなかった	42	42.9	56	57.1
	聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった	171	38.2	277	61.8
	ある程度、どのようなものかも知っていた	388	45.8	458	54.0
	「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた	172	58.9	120	41.1

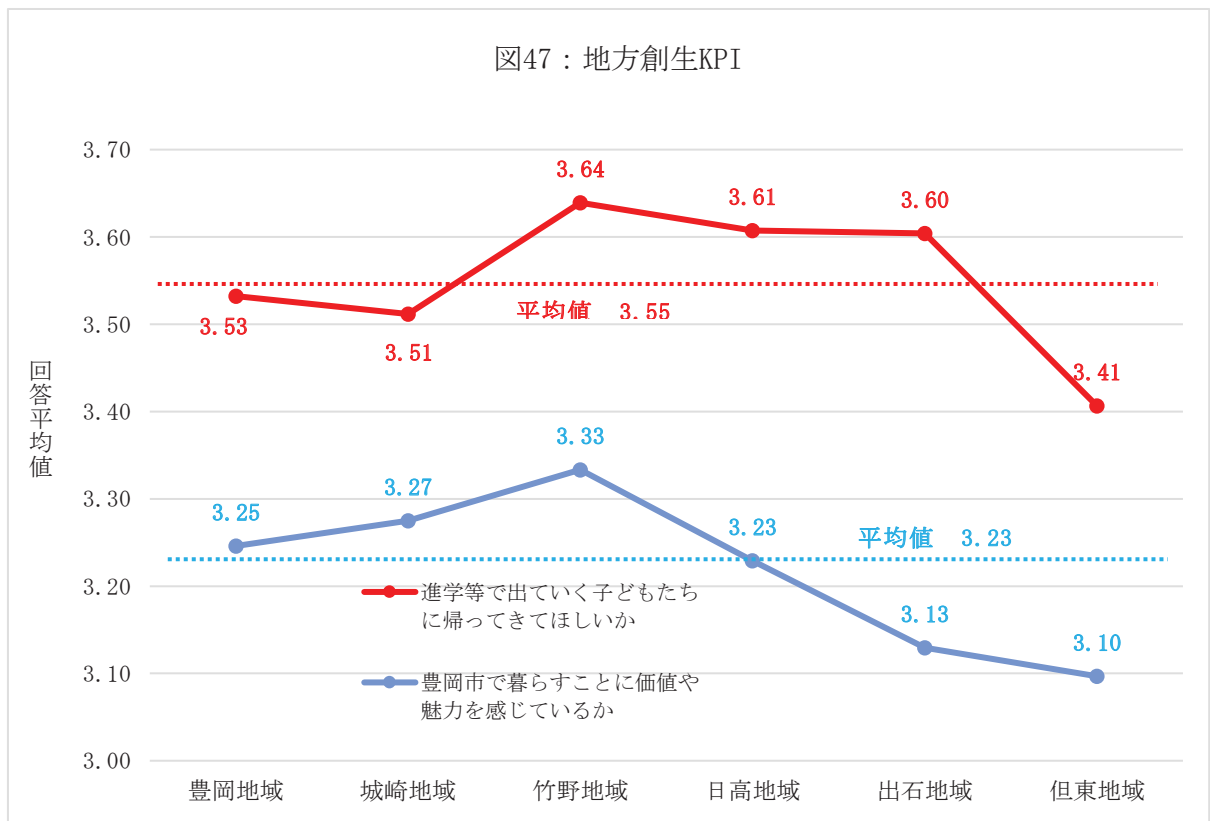
(注5) クロス集計表において、どのセルが有意に大きいか（小さいか）を分析する手法です。

## 11 まちづくりと観光について（問45～問48）

- (1) 問45『あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じていますか』及び問46『あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいと思いますか』は、地方創生のKPIを得るための設問である。

2020年調査における問45（青色折れ線）及び問46（赤色折れ線）の地域別の結果は図47のとおりである。

両問とも地域間で統計的に有意な差はない。

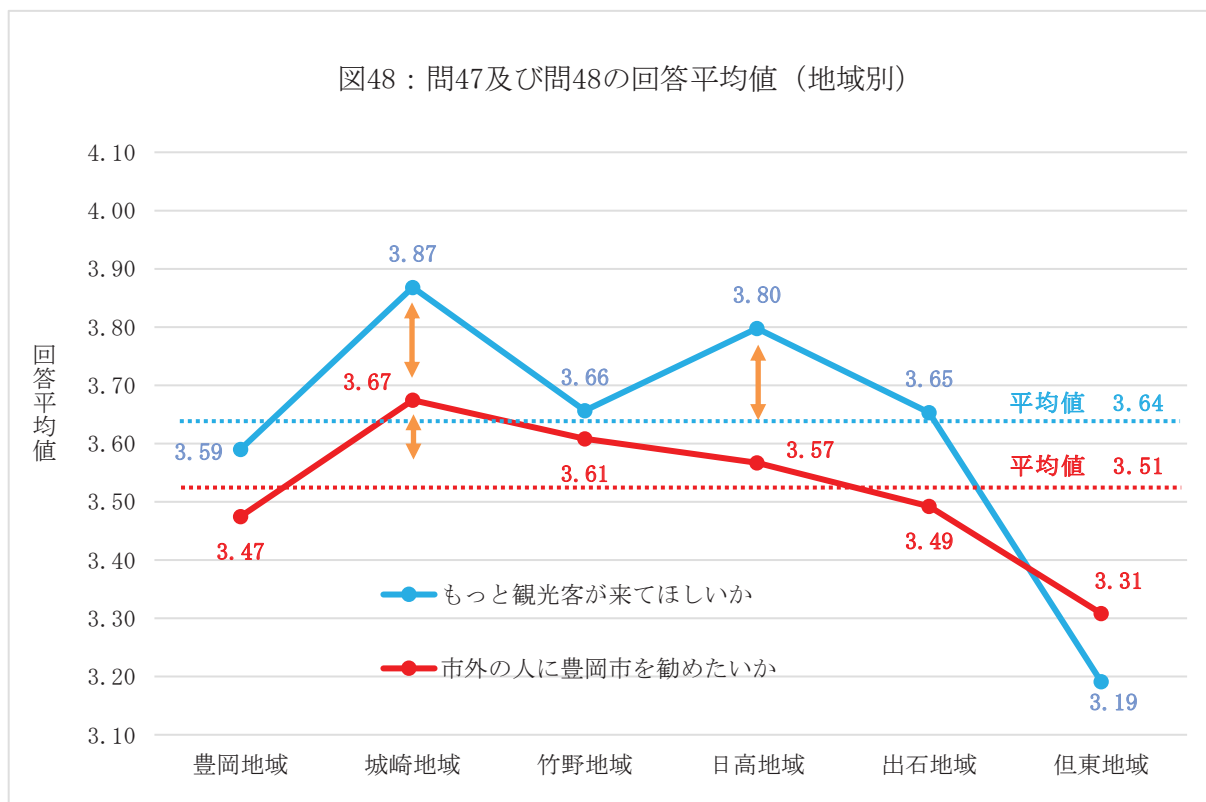


(2) 問47『あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いますか』及び問48『市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか』は、観光に関する戦略の指標を取得するための質問である。

2020年調査における問47（青色折れ線）及び問48（赤色折れ線）の地域別の結果は図48のとおりである。

問47に対しては、但東地域以外の地域と但東地域との間に統計的に有意な差がある。また、豊岡地域と城崎地域及び日高地域との間に統計的に有意な差がある。城崎地域と日高地域は、他の地域に比べ観光客が来てほしいと思っていると言える。

問48に対しては、但東地域と城崎地域、竹野地域及び日高地域との間に統計的に有意な差がある。また、豊岡地域と城崎地域との間に統計的に有意な差がある。城崎地域は、他の地域に比べ市外の人に豊岡市を進めたいと思っていると言える。



## 12 統計基礎用語解説

### (1) t検定

本アンケートの回答の多くは、設問に対する最も否定的な回答選択肢から順に、1から5までの整数値として計算している。t検定は、このような回答について、2つのグループの平均値の差が「単なる偶然」による差異ではないことを確認するための統計手法である。検定結果であるt値を記録し、通常、t値が2より大きければ、2つのグループは「統計的に有意な差がある」と判断される。

### (2) カイ2乗 ( $\chi^2$ ) 検定

本アンケートの設問の中には、選択するかしないかを選ぶものがある。そのような回答について、その分布に違いがあるかどうかを検定する場合などに、カイ2乗検定を使うことができる（カイ2乗検定は別の場合にも使う）。検定結果である「カイ2乗値」及び「自由度 (degree of Freedom : df)」を記録し、この両方の値を総合して「統計的に有意な差がある」と判断する。カイ2乗値が大きいほど、2つのグループはその分布に違いがあると判断できる。

### (3) 相関分析

2つの連続変数（身長や体重のような数）の間に、単なる偶然ではない関係が存在するかどうかを確認するための統計手法である。相関関係の強さは「r」の値として記録する。「相関関係が全くない」ことを示す「 $r=0$ 」から、「非常に強い関係がある」ことを示す「 $r=1$ 」或は「 $r=-1$ 」までの値をとる。「 $r=0$ 」から「 $r=1$ 」までの正の相関関係は「一方が増えれば他方も増える」という比例的な関係を表し、「 $r=-1$ 」から「 $r=0$ 」までの負の相関関係は「一方が増えれば他方が減る」という反比例関係を表す。なお、相関関係は因果関係ではないため、両者を区別して考える必要がある。

### (4) 有意水準

(1)、(2)及び(3)の結果が「統計的に有意な分析結果」であるかどうかは、「有意水準 (p)」によって示され、この値が0.05（又は0.01）よりも小さい場合、即ち分析の結果が「単なる偶然に過ぎない」確率が5%（又は1%）以下である場合、「統計的に有意な差がある」と判断する。本報告書における「有意水準」は、「 $p<0.05$ 」（又は「 $p<0.01$ 」）等と記録している。

## 2020 豊岡市 まちづくりアンケート ～政策モニタリング調査～

日頃から市の取組みにご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

豊岡市では、よりよいまちづくりに活用するため、毎年、アンケートを実施しています。

このアンケートは、18歳以上の豊岡市民の皆さまの中から4,000人を無作為に抽出して送付しており、すべて匿名で処理され、個人に関する情報が公開されることはありません。

また、集計結果は政策の改善の目的のみに使用し、その他の目的に使用することはありません。

アンケート回答の所要時間は約20分です。お忙しいところ恐縮ですが、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【 返送締切： 2020年2月7日（金） 】

2020年1月17日  
豊岡市

《 お問い合わせ 》

豊岡市政策調整課 行政改革係 担当：本庄、藤田  
電話：0796-21-9022  
FAX：0796-24-5932  
Eメール：seisakuhousei@city.toyooka.lg.jp



◆**豊岡市の重要施策について評価しています。**

豊岡市では、市の重要政策について評価を行い、立案した政策の改善に結び付けたいと考えています。

その政策の改善の手がかりの一つにするために、このアンケートを定期的に変更しています。これからも毎年このアンケートを実施し、政策が順調に進んでいるかどうか、どうすればもっとうまくいくかについて等の情報を得た上で、政策の改善を検討していきたいと考えています。

◆**市民の皆様と「協働」して政策を改善します。**

市民の皆さまと一緒に政策を改善するために、市民ワークショップ等を開催し、政策について話し合っています。

「協働」とは、共通の目的に向かって一緒に行動することです。

市民ワークショップでは、（共通の目的に賛同する）市民の皆さまと市が一緒に政策を考えたり、見直したりする話し合いを行っています。その話し合いで得られた市民の皆さまの経験や知識を政策に反映し、共通の目的の実現に向けて一緒に行動していきたいと考えています。



市民ワークショップの様子



\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

=====<<あなた自身について>>====

【問1】 あなたの性別は？

- (1) 男性 (2) 女性 (3) その他

【問2】 あなたの年齢は？

- (1) 10代 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代 (5) 50代 (6) 60代 (7) 70代 (8) 80代以上

【問3】 あなたの職業（最も多く収入を得ているもの）は？

- (1) 会社員、会社役員 (2) 自営業（農業含む） (3) 公務員 (4) パート、アルバイト  
(5) 専業主婦 (6) 学生 (7) NGO、NPO (8) 無職（年金暮らし含む）  
(9) その他（ ）

【問4】 あなたはこの地区にお住まいですか？

- (1) 豊岡地区 (2) 八条地区 (3) 三江地区 (4) 田鶴野地区 (5) 五柱地区 (6) 新田地区  
(7) 中筋地区 (8) 奈佐地区 (9) 港地区（港東小学校区） (10) 港地区（港西小学校区）  
(11) 神美地区 (12) 城崎地区 (13) 竹野南地区 (14) 中竹野地区 (15) 竹野地区 (16) 国府地区  
(17) 八代地区 (18) 日高地区（日高小学校区） (19) 日高地区（静修小学校区） (20) 三方地区  
(21) 清滝地区 (22) 西気地区 (23) 弘道地区 (24) 菅谷地区 (25) 福住地区 (26) 寺坂地区  
(27) 小坂地区 (28) 小野地区 (29) 箕母地区 (30) 合橋地区 (31) 高橋地区

【問5】 あなたの同居家族の構成は？

- (1) ひとり暮らし (2) 夫婦のみ (3) 夫婦と未成年の子ども  
(4) ひとり親と未成年の子ども (5) 二世帯家族（親と子、③④を除く）  
(6) 三世帯家族（親と子と孫） (7) その他（ ）

【問6】 あなたのお住まいの居住形態は、どれにあたりますか？

- (1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（マンション等集合住宅）  
(3) 賃貸（一戸建て） (4) 賃貸（マンション等集合住宅）  
(5) 社宅・寮・シェアハウス等 (6) その他（ ）

【問7】 あなたの同居家族に**高校生以下の子ども**がいる場合は、その人数を教えてください。

小学生以下の子ども：\_\_\_人 中学生の子ども：\_\_\_人 高校生の子ども：\_\_\_人

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

=====<<自然と環境について>>====

【問8】 あなたは、周囲の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか？

- (1) ほとんど感じていない (2) あまり感じていない (3) どちらとも言えない  
(4) ある程度感じている (5) とても感じている

【問9】 あなたは、生物多様性保全のためにどのような取り組みが重要と思いますか？**重要と  
思われるものすべてに○をつけてください。**

- A 稲作（コウノトリ育む農法など） B 耕作放棄地のビオトープ化  
C 間伐 D 自然に配慮した工法による河川整備  
E 環境教育の実施 F 農地や農業施設の適正な管理  
G 湿地、里山などの保全活動 H 自然体験活動の実施による自然への理解  
I 里山の整備 J コウノトリをシンボルとした様々な取り組み  
K その他（ ）

【問10】 あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか？**当ては  
まるものすべてに○をつけてください。**

- A 省エネ行動（節電など） B ゴミの減量化（分別の徹底など）  
C 公共交通の利用 D 自然エネルギーの活用（太陽光パネルの設置など）  
E クールスポットの活用 F エコ家電の購入  
G 環境に配慮した製品の購入（オーガニック、有機JASなど）  
H クールビズ、ウォームビズの実践 I リサイクルショップなどの活用  
J 地球温暖化についての議論や対話 K その他（ ）

【問11】 あなたは、森林資源（木質バイオマス）や自然エネルギー（太陽光、風力、水力）な  
どの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない  
(4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う



=====<子育てと教育について>=====  
 \*該当する番号、記号に○をつけてください。  
 \*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問12】 あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていると思いますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない  
 (4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う

【問13】 子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A こども支援センター B 子育てセンター C 教育相談室 D 青少年センター  
 E 社会福祉課（障害・療育） F 健康増進課（健康や成長、こころのケア）  
 G その他（ ）

【問14】 豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない  
 (4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う

【問15】 子ども達が集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか？  
**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 子育てセンター B コミュニティセンター C 放課後子ども教室  
 D 保育所等の公開保育 E 保育所等の園庭開放 F どれも知らない  
 G その他（ ）

【問16】 あなたのまわりの子どもたち（小学生・中学生）は、まわりの大人たちとのあいさつや会話ができますか？

- (1) ほとんどできていない (2) あまりできていない (3) どちらとも言えない  
 (4) かなりできている (5) とてもよくできている

【問17】 あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち（小学生・中学生）はどのくらい参加していますか？

- (1) ほとんど参加していない (2) あまり参加していない (3) どちらとも言えない  
 (4) かなり参加している (5) とてもよく参加している

=====<環境と経済について>=====  
 \*該当する番号、記号に○をつけてください。  
 \*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問18】 あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない  
 (4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う

【問19】 日常生活で環境に配慮した商品意識して購入していますか？

- (1) まったくしていない (2) していない (3) 分からない (4) している (5) とてもしている

【問20】 豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思えますか？

- (1) まったくそう思わない (2) あまりそう思わない (3) どちらとも言えない  
 (4) ある程度そう思う (5) とてもそう思う

=====<健康と運動について>=====  
 【問21】 あなたは現在、自分が健康だと思いますか？

- (1) まったく思わない (2) 思わない (3) 思う (4) とてもそう思う

【問22】 あなたは健康維持・増進のために運動（1日30分以上）をしていますか？

- (1) ほぼ毎日している (2) 週に3日以上している (3) 週に2日している  
 (4) 週に1日以下 (5) していない

【問23】 【問22】の回答で①～④を選択した方にお尋ねします。その運動はどのくらい継続されていますか？

- (1) 1年以上 (2) 6か月～1年未満 (3) 3か月～6か月未満 (4) 3か月未満

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

【問24】 あなたは1年前と比べて、「歩くこと」など体を動かす健康づくりをする回数に変化はありますか？

- (1)かなり減った (2)減った (3)変わらない (4)増えた (5)かなり増えた

【問25】 あなたは体を動かす健康づくりとして、どのようなことを実践していますか？**当てはまるものすべて**に○をつけてください。

- A 日常生活の中で歩くようにしている（近いところなら歩くなど）  
 B 歩数計、携帯電話、スマートフォンなどを活用し、自分の歩数を把握する  
 C ウォーキングやジョギングをする  
 D 健康ポイント制度に参加する  
 E 自宅でテレビやDVDに合わせて体操する  
 F 玄米元気教室に参加する  
 G 自宅で筋力トレーニング（スクワットなど）をする  
 H 地域（老人クラブなど）のグラウンドゴルフなどに参加する  
 I スポーツ21 やサークル（卓球、太極拳など）に参加する  
 J 職場でラジオ体操やストレッチをする  
 K 講師がいる運動教室に参加する  
 L 運動施設（プール・ジムなど）に通う  
 M 農作業で体を動かしている  
 N その他（ ）  
 O 特に何もしていない

=====＜公共交通について＞=====

【問26】 あなたは外出の際、移動手段について不便に感じることがありますか？

- (1)ほとんど感じたことはない (2)あまり感じたことはない (3)感じることもある  
 (4)しばしば感じている (5)いつも感じている

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員で回答ください。

【問27】 あなたは、日常生活で移動するとき、**主に**どの手段で移動しますか？**利用される頻度の高いものから3つ**選んで記号を書いてください。

回 答 記 入 欄		
最も頻度が高い： [ ____ ]	2番目に頻度が高い： [ ____ ]	3番目に頻度が高い： [ ____ ]
選 択 肢		
(1)徒歩	(2)自転車	(3)バイク
(5)福祉タクシー	(6)タクシー	(7)鉄道
(9)マイカー	(10)その他（ ）	(4)家族や知人の送迎
		(8)バス

【問28】 あなたは**大阪方面へ**移動する際、**主に**どの交通手段を用いて移動しますか？**当てはまるもの1つ**に○をつけてください。

- (1)大阪方面へは行かない (2)家族や知人の送迎 (3)特急バス  
 (4)飛行機 (5)鉄道 (6)マイカー (7)その他（ ）

【問29】 あなたは**東京方面へ**移動する際、**主に**どの交通手段を用いて移動しますか？**当てはまるもの1つ**に○をつけてください。

- (1)東京方面へは行かない (2)家族や知人の送迎 (3)特急バス  
 (4)飛行機 (5)鉄道 (6)マイカー (7)その他（ ）

=====＜食と農業について＞=====

【問30】 あなたは家庭で作る食事に、オーガニック、無農薬、減農薬の食材・食品を使っていますか？

- (1)ほとんど使ったことはない (2)あまり使うことはない (3)使うことがある  
 (4)ときどき使っている (5)いつも使っている

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問31】 【問30】③、④、⑤のいずれかに○をつけた方にお尋ねします。使っているオーガニック、無農薬、減農薬の食材はどのようなものですか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 米      B 大豆      C 麦      D 野菜  
E 果物      F ジュース、菓子類      G お茶、コーヒー      H 豆腐  
I レトルト食品、保存食品      J その他 (      )

===== < 地域の歴史、伝統、文化芸術 > =====

【問32】 あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか？

- ①ほとんど感じていない    ②あまり感じていない    ③どちらとも言えない  
④ある程度感じている    ⑤とても感じている

【問33】 あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 自然 (日本海、神鍋高原、コウノトリなど)    B 史跡 (出石城跡、但馬国分寺跡など)  
C 建物 (燗泉寺、出石神社など)    D 町並み (城崎温泉、出石城下町など)  
E 美術工芸品 (仏像、絵画、工芸品など)    F 伝統芸能(だんじり、盆踊り等)  
G その他(      )

【問34】 あなたは、市外の人やマスメディア、SNSなどの評価によって、豊岡の歴史、伝統、文化の素晴らしさに気付かされたことはありますか？

- ①ほとんどない    ②あまりない    ③たまにある    ④しばしばある    ⑤とてもよくある

【問35】 あなたは、豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思えますか？

- ①まったくそう思わない    ②あまりそう思わない    ③どちらとも言えない  
④ある程度そう思う    ⑤とてもそう思う

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問36】 あなたは、一流のアーティストが創作する舞台芸術や芸術作品など、質の高い芸術に気軽に触れられる機会が多いと思いますか？

- ①まったくそう思わない    ②あまりそう思わない    ③どちらとも言えない  
④ある程度そう思う    ⑤とてもそう思う

【問37】 あなたは、豊岡市で活動するアーティストやクリエイターを応援したいと思えますか？

- ①まったくそう思わない    ②あまりそう思わない    ③どちらとも言えない  
④ある程度そう思う    ⑤とてもそう思う

===== < 防災について > =====

【問38】 あなたは、市民総参加訓練に参加していますか？

- ①一度も参加したことがない    ②たまに参加することがある    ③時々参加している  
④毎回参加している

【問39】 【問38】で①に回答した方にお尋ねします。参加したことがないのはなぜですか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 自分の地域では市民総参加訓練が実施されていない  
B 市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない  
C 仕事や家事、育児、介護、学業などで時間がとれない  
D 訓練が役に立つとは思えない  
E 関心がない  
F あまり人と付き合いたくない  
G 転入したばかりでまだ機会がない  
H その他 (      )

【問40】 あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思えますか？

- ①まったくとれると思わない    ②あまりとれると思わない    ③ある程度とれると思わない  
④かなりとれると思う    ⑤とてもしっかりとれると思う



\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問41】 あなたは次の防災活動に参加したことがありますか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 区で行われる訓練（市民総参加訓練以外）
- B 市政出前講座
- C 区、コミュニティで行われる防災ワークショップ
- D 防災学習会
- E 北但大震災メモリアル写真展
- F 台風23号メモリアル写真展

【問42】 あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか？

- (1)ほとんど感じない (2)あまり感じない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じる (5)とても感じる

【問43】 あなたは災害に備えて次のことを実践していますか？**当てはまるものすべてに○をつけてください。**

- A 非常持出品を準備している
- B 家具の転倒防止を施している
- C 住宅の耐震診断や耐震改修を行っている
- D 市が配布している防災マップを保管している
- E 防災マップを活用し、最寄りの避難場所を確認している
- F 防災マップを活用し、避難ルートを確認している
- G 有事の際、助けが必要な（または自分を助けてくれる）近所の人の存在を認識している
- H 有事の際の避難行動について、家族と話し合っている（避難場所や連絡の方法など）
- I 防災行政無線・戸別受信機の電池交換をしている
- J とよおか防災ネットに登録している
- K その他（ ）

\*該当する番号、記号に○をつけてください。  
\*回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問44】 「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことの無いような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか？

- (1)まったく知らなかった
- (2)聞いたことはあったが、どのようなものは知らなかった
- (3)ある程度、どのようなものかも知っていた
- (4)「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた

===== <まちづくりと観光について> =====

【問45】 あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問46】 あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問47】 あなたの地域（合併前の旧市町）にもっと観光客が来てほしいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問48】 市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思えますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

アンケートは以上です。  
ご協力、ありがとうございました。